

# maturity

マチユリティ



2016-JAN

102

公益社団法人 日本産業退職者協会  
JARP

# maturity

東日本大震災で被災された方々と  
そのご家族の皆さまに  
心からお見舞い申し上げます。  
皆さまの安全と被災地の一日も早い  
復旧・復興をお祈り申し上げます。

公益社団法人 日本産業退職者協会  
理事長 榎本 郁夫

2011年3月11日の大震災による未曾有の惨状に対し、全国  
民が一樣に心を痛めております。

「社会に役立ち社会を明るくする活動」を積極的に展開する当協会  
は被災地域の一日も早い復旧を願うとともに、会員の皆様に救援  
募金を呼びかけております。

どうかご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(事務局)

郵便振替 口座番号 00130 - 3 - 139353

加入者 公益社団法人 日本産業退職者協会

- ・振込手続には、すでにお送りしてある払込取扱票をご利用ください。
- ・おそれいりますが、振込手数料はご負担願います。

なお、当協会では協会の情報提供誌「Rプラン生活情報誌」及び「私の  
大切な覚書き」の頒布収入の1%を災害義援基金等に寄付いたします。

公益社団法人 **日本産業退職者協会 ( JARP )**  
Japan Association of Retired Industrial Persons

# 目次 maturity 2016年／第102号

年頭所感	屠蘇の酔い (七) ……………	山本 恵朗	2
特集	「地方創生を考える」ふるさと回帰から生まれること ……………	見城美枝子	4
ふれあい トークサロン	第23回 インド、タイ、ヨルダン、ハワイで過ごした20年間 (私の人生行路) ……………	西脇誠五郎	12
	第24回 第一部 株式市場の構造と見通し ……	細井 秀司	
	第二部 金融所得課税の一体化の概要 ……………	長島 義浩	15
社会貢献活動	認知症の人々への支援を考える ……………	山鹿 素雄	19
チャリティ コンサート	《第12回》チャリティコンサート～友情と希望～ ……………	有馬 弘純	20
かがやき サロン杉並	世代間交流の『かがやきサロン杉並』 ……………	満田 将太	22
はつらつ ふれあいの集い	個人会員親睦会 ……………	藤崎大四郎	23
マチュリティ 談話室	私の旅人生 ……………	泉 直樹	25
	四十八年目の告白 ……………	市村 章	25
	ふるさと・家族 ……………	岡 季子	26
	デジタルよもやま話 ……………	外前田 恵	27
	「宿題」 ……………	吉田 亜紀	28
ひとこと 「私の一冊」	飯田 暁／伊藤正雄／小川千幸／小野利明 木村一雄／黒木重昭／黒坂貞子／関根貞夫 田林巖樹／築山洋子／長谷川充／林 稔 牧 康司／森 秀雄／吉田昌子 ……………		29
読書案内	「週刊読書人」の編集長がすすめる本 ……	明石 健五	31
イベントだより	囲碁会／絵手紙&小品絵画同好会／江戸東京歴史散歩の会 園芸クラブ／鎌倉探訪／カラオケ同好会Ⅱ／木楽会 サロンコンサート／四季の会／詩吟同好会／自然を楽しむ会 水墨画教室／竹とんぼ同好会／築地海鮮井川柳会 デジカメクラブ／PCクラブ／木版画教室／歴史を考える会 ……………		32
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会 ……………		41
広島支部だより	詩吟を楽しむ会 ……………	橋本 保	46
損保懇だより	第28回 損保OBの集い ……………	松多 昭三	47
役員名簿／編集後記	……………		48
法人・団体 会員名簿	……………		49

表紙写真／「春駒の舞」(郷土の森公園にて) 横堀尚昭

裏表紙(会員作品)／菅 克之／竜田正彦(広島)／須賀紀哉(広島)／鈴木新太郎

## 年頭所感

# 屠蘇の酔い (七)



公益社団法人 日本産業退職者協会

会長

山本恵朗

皆様、新年明けましておめでとございます。一年の節目は、文化によって異なるようですが、日本人は、暦の新年に特別な意味を感じます。昨年のいろいろな事は一旦横に置いて、新しい年をどう生きるかを考える習慣が身に付いているのだと思います。私たち退職者には残された時間をどう生きるかというグラウンド・デザインが必要です。

昨秋、渡辺淳一が、主演川島なお美で映画化することを前提に書いたと言われる「失楽園」の主演女優が長いガン治療

の末、亡くなりました。彼女は、死の1週間前まで舞台に立っていました。体力の限界から、自ら舞台を休む決断をしたと報道されました。

萩本欽一は、昨年の5月の舞台を最後に、引退し、何か新しいことにチャレンジしたいと、駒沢大学仏教学部に入学し、若い学生の中で勉強を始めました。「あしたの大学に行けば誰かに会えるのが楽しみだ」とテレビのインタビューで目を輝かせていました。二人は前を向いて生きています。

昨年、私は延命治療を受け入れるか、尊厳死をどう考えたらいかなど、自分の終末期を自ら決めることが肝要だと書きました。今年はもう少し手前、介護の問題です。

安倍総理大臣は、新三本の矢（私は内容は矢ではなく、的だと思います）の一つとして介護離職をなくすと言っています。私たちは、介護する立場から、だんだん介護される側に移っていきます。ひと昔前までは、介護の為に親を施設に入れるのは「姥捨」と同じだという声

があり賛同する人も多かったと思います  
が、核家族化、地域共同体の崩壊などの  
現実を前に、社会全体で老人を介護する  
方向に国民の考えが傾いてきたようです。  
社会全体でというと漠然と誰か他人が責  
任を持ってやってくれると思いがちです。  
誰のお金で、誰が介護をするのかをもつ  
と具体的に議論した上で国民がその改革  
を受け入れる覚悟をすることが必要です。

さて、「姥捨」という言葉が一般に知  
られるようになったのは、1956年に  
発表し芥川賞を受賞した深沢七郎の「榎  
山節考」からでしょう。私の郷里信州に  
は、JRの「姥捨駅」が現存しているよ  
うに、私にとって姥捨伝説は身近なもの  
でした。この小説はこの姥捨伝説をもと  
に書かれたもので、芥川賞の選考委員の  
一人であった三島由紀夫は「読後この世  
にたよるべきものが何一つなくなつたよ  
うな気持ちにさせられるものを秘めてい  
る不快な傑作である」と評しています。  
この小説は、1958年には映画化され、  
1983年にも映画化されています。社  
会に与えた衝撃は広く大きなものであり

ました。人間国宝である狂言師野村万作  
は早くも1957年12月に大学の仲間と  
狂言という伝統芸能の中で、「榎山節考」  
を採り上げました。58年を経た昨秋、万  
作は「自分の狂言の原点」であるという  
「榎山節考」を新演出で上演しました。  
改革者であった万作に再演を決意させた  
ものが何かは詳らかにしませんが、万作  
自身84歳の年令と無関係ではないでし  
う。

小説のあらすじは次のようなものです。  
70歳になると「榎山まいり」と称して老  
人は山に捨てられる風習のある貧しい山  
村で、70歳を迎えるおりんの「榎山ま  
いり」が近づいています。おりんには子や  
孫がおり、貧しさは「口べらし」を迫り  
ます。おりんは自分が物を食べられない  
ように自分の歯を碎きます。山へ行く準  
備をしますが、息子の辰平は母を山に捨  
てる覚悟ができません。雪の来る頃、お  
りんは辰平をせかして、辰平に背負われ  
て山に入ります。辰平が家にもどると、  
孫がおりんの「綿入れ」を着ていました。  
「綿入れ」はおりんの唯一の防寒着でし

たが、集落の掟では山に持っていけない  
ことになっていました。

おりんの覚悟、行動は、家族への愛と  
地域共同体への信頼で一体感に支えられ  
たものでしょう。私にとって歯を碎くと  
は何か、「綿入れ」は何か、家族とは、  
集落とは何か、と深刻な問題を投げかけ  
られました。

三島はその異能をもって今日を予想し、  
先のような批評を書いたように思えて仕  
方ありません。

織田信長は出陣の前に好んで「敦盛」  
の一節を舞ったと言われています。

「人間五十年

下天の内を比べれば

夢幻のごとくなり

一度生を得て

滅せぬ者のあるべきか……」

これは単なる無常観でなく、死をも覚  
悟して、未来に向かう決意を固めるため  
に舞ったのだと思います。

今年も「夢幻」はともかく、新しい現  
在を強く生きたいと思えます。

## 「地方創生を考える」

### ふるさと回帰から生まれること

NPO法人ふるさと回帰支援センター理事長 見城 美枝子

俳優の菅原文太氏は自身が山梨県北杜市で稲作農家になるといふ移住を実行された方で、当初からふるさと回帰支援センターの特別顧問を引き受けて頂いた。残念ながら亡くなられたが、菅原文太氏には命ある限り日本にとって農業がいかに大切か、命の糧を生む農業を手放してはならないという信念でこの運動を支えて頂いた。

昨年のおふるさと回帰フェアではオープニングで石破ふるさと創生大臣がご祝辞のスピーチの後、会場を埋めるすべての自治体ブースを回られるというハプニングが起きた。それはよく見かけられる通り一遍の顔見世ではなく、ポスターを張り旗を立てて移住相談に臨む各自治体の職員に声をかけ質問をするという熱心さで、本腰で地方の再生を担う石破大臣の決心を見た思いだった。その後、石破大

臣により「そうだ地方で暮らそう」会議が開かれることになり、私もそのメンバーとして会議に参加、NPO法人ふるさと回帰支援センターの活動を報告させていただいた。

### はじめに——移住とはなにか

住めば都というけれど、移住は簡単ではない。旅行とは違い「住む、暮らす」となると、客人扱いから住人関係になるため、様々な問題が生じる。基本的には住む家、働く場、付き合う人、の「家、職、友」が揃うか、条件が揃ったとしても移住する本人が居心地が悪ければ長続きはしない。客人としての傲慢さ、わがままに気づける人は成功するのではないだろうか。移住の仕方にも、どこか希望地へ一直線に移住する「Iターン」、ふるさとへ途中下車で移住する「Jターン」、生まれ故郷や育った土地、ふるさとへ一直線の「U

ターン」と三パターンあって、合わせてIJUでイジユウ、移住と語呂合わせで覚えていただくとうわり易い。

私自身は青森大学へ20年間務めている経験から「通い単身赴任」の方法も一考に値すると考えている。私の場合は子育て中であったこと、家庭の主婦として家を出ることが不可能であったこと、東京にも仕事があったことなどから、青森大学へは飛行機で通うことになった。現在も通っている。青森大学の例では、崎谷康文学長は現職に就く時に青森へ移住されたが、岡本成行理事長は東京から通い、数日宿泊して東京へ帰るといふ半移住のような形態をとっている。移住を考える場合、最初から一直線に向かうのも良いが、まずは自分に可能な形で始めるのも良いと思う。

青森へ着くと夏でも冬でも冷涼な空気が美味しいことに気づかされる。水も美味しい。魚も美味しい。そして今年には新米「青天の霹靂」が見事に美味しい。東京にはない時間の流れ、混雑のない生活、どこか心が休まる詠りの響き。職場の異動で単身赴任の経験のある方なら、その地での仕事とその地の人々との交流、そして馴染みの店があれば、そこが第二のおふるさとになる。



●見城 美枝子 (けんじょう・みえこ)  
早稲田大学大学院理工学研究科博士課程  
単位取得。東京放送入社後、フリーに。  
海外取材を含め56ヶ国訪問。著作、対談、  
講演、テレビ等でエッセイスト、ジャー  
ナリストとしても活躍。TBSラジオ「大  
沢悠里のゆうゆうワイド」水曜日担当。  
新刊『ニッポンの食と農 この10年』発  
売中。その他著書『会話が苦手なあなたへ』  
『会話が上手になりたいあなたへ』等  
青森大学副学長 教授・新島学園短期  
大学客員教授・サイバー大学教授  
NPO法人ふるさと回帰支援センター理  
事長

主な現職

- \*一般社団法人JAバンクアグリ・エコサポート基金理事
- \*一般社団法人農林水産業みらい財団理事
- \*全国農業会議所学識経験会員
- \*財団法人ゆうちょ財団理事
- \*公益財団法人東京動物園協会理事
- \*公益財団法人リバーフロント研究所理事
- \*アルコール健康障害対策関係者会議委員 (内閣府)
- \*日本芸術文化振興会委員
- \*東京都現代美術館運営諮問委員会委員
- \*東京都水道事業経営問題研究会委員
- \*毎日農業記録賞審査委員
- \*JTB交流文化賞審査員
- \*日本ベンクラブ会員

この提案をうける形で「CCRC (Con-  
tinue Care Retirement Community)」健

移住に向かない人はそれまでの生活や身分  
を鎧兜のように着て脱ぐことが出来ない人。  
土地の人もいつまでも客人扱いはしてくれな  
い。当初はいろいろとその地域の暮らしぶり  
や人間関係等気遣って教えてくれると思うが、  
本人がいつまでもその好意の上に胡坐をか  
くような人生観しか持てないとしたら、結局孤  
立する。移住するということはその集落、そ  
の町内会の一員になるということで、「参加」  
と「協働」が条件と考えた方がよい。しかし  
これは特別な苦行ではなく、人間、どこで暮  
らすにも必要なことではないだろうか。ただ、  
都会に長く暮らすと、全て無言で済まそうと  
思えば可能なので、誰とも共有するものがな  
いまま一日が過ぎせる。その暮らしぶりを快

適と思う方は地方への移住をお勧めできない。  
移住はその土地の人との付き合いなしでは定  
着が難しい。  
① 地方移住をめぐる現状  
●4度目の波  
2014年5月の自治体消滅論、増田寛也  
元総務大臣・前岩手県知事を座長とする日本  
創生会議の人口減少問題研究会が発表した  
「消滅可能性都市」のレポート(増田レポート)  
は大きくメディアを騒がせたほか、地方自治  
体に大きな衝撃を与えた。若年女性の流出に  
より、2040年に全国の896自治体が消  
滅の可能性があるというもので、これまで騒  
がれていた「過疎問題」や「限界集落」といっ

た言葉が「消滅自治体」という絶望的な言葉  
に取って代わったのである。  
その後、都道府県および市町村でも「まち・  
ひと・しごと創生総合戦略(地方版総合戦略)」  
の策定の指示が出された。これは国が目標と  
して定めている「50年後に1億人程度の人口  
の維持」を実現させるために地方の雇用や定  
住促進策や子育て施策などを地方自治体ごと  
にまとめたものである。  
また、2015年6月に第二弾の政策提言  
として日本創生会議が発表した「東京圏高齢  
化危機回避戦略」である。東京、神奈川、千  
葉、埼玉の1都3県では、今後10年間で75歳  
以上の後期高齢者が175万人増える。この  
結果2025年に介護施設が13万人分不足し、  
医療や介護に対応できなくなり、高齢者が病  
院や施設を奪い合う構図になるだろうという  
予測から、地方移住、団地の再生、外国人介  
護士の受け入れなどの提案を行った。その中  
で大きく取り上げられたのが高齢者の地方移  
住で、まだ介護施設や病院の病床にゆとりの  
ある地方部でゆとりのある生活を送ってもら  
おうというものである。

康な時から介護が必要になる時まで継続的ケアを提供する高齢者施設を地方都市に作って、いこうという動きも活発になっている。当然、要介護状態にならないための予防医療、健康支援、あるいは地方大学と連携した社会参加など様々なプログラムをイメージしているが、都市部から地方へ高齢者を送り込む施策に対し、政府主導の「姥捨て山」ではないかと揶揄されていることも事実である。

1980年代後半、当時の通産省が「シルバークロニア計画（豊かな第二の人生を海外で過ごすための海外居住支援事業）」というリタイア層が第二の人生を海外で送るプログラムを提案。研究会も開かれたが、当時もマスコミから「老人を海外に輸出」「海外姥捨て山」などの批判を受け、計画そのものは研究会レベルで留まったが、今回の日本創生会議の提案も同じ批判にさらされることとなった。

こうした批判の根底には、地方や高齢者の受け入れ先とされた地域への「まなざし」の欠如と、その対象者とされた人たちへの「気持ち」への配慮がなかったことが原因ではないだろうか。

### ◎高齢者の地方移住をめぐる動き

こうした高齢者の地方移住の動きは実は急に出てきた話ではない、約10年前2007年問題として話題になった団塊世代の大量退職問題がそれである。1947年から49年生まれの約680万人にもなる「団塊世代」が2007年から2009年に退職を迎え、企業の雇用構造や労働力、そして技能継承など、様々な形で影響をあたえると言われた問題である。

60歳といえば、まだまだ体も動き、農村部では若者扱いされる年齢でもある。また、1960年代、地方圏から3大都市圏への人口流入は非常に多く、地方圏居住者の3割が3大都市圏に移動したと言われている。しかし、1970年代になると公害問題などの都市部での居住環境の悪化や、オイルショックによる経済成長の鈍化により、地方圏への移動、いわゆるUターン現象が起こり始めるが、未だに都市部に居住する団塊世代の多くは地方出身者である。こうした団塊世代の大量退職は過疎化に悩む地方自治体にとってはこうした人材を獲得し、定住人口を増やすために様々な移住者獲得に乗り出した。

しかし、2006年に施行された「高齢者

雇用安定法」により、定年制を導入している企業は65歳までの継続雇用制度等を導入。多くの企業で雇用継続が進んだため、この問題は5年先送りされ、「2012年問題」と呼ばれることとなる。

### ◎ふるさと回帰運動と「定年帰農」

先に述べたように1950年代以降の産業・経済政策によって地方から都会への転入が起こり、都市部では過密化、そして地方では過疎・高齢化が起こっている。1998年にこうした地方から大都市に移った人材をもう一度地域に返す時ではないかという政策提起を連合が行った。それに呼応する形でJA全中が連合や生協などに呼び掛けて「食料・農林漁業・環境フォーラム」を立ち上げ、2000年にふるさと回帰運動をNPOとして取り組むことを提言。2002年11月にNPO法人100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター（略称・ふるさと回帰支援センター）を設立した。

ふるさと回帰運動のスタートは虎の門パストラルの屋上の事務所。当時のJA全中会長の原田睦民氏から農業の人材再生への期待を込めた板に墨書きの「NPO法人ふるさと回



婦支援センター」の看板を戴き、現代表理事の高橋公と私とで事務所の玄関に掲げたのは今から14年前になる。初代理事長は作家の立松和平氏。立松氏は以前から知床の世界自然遺産登録運動をはじめ地方の自然環境保護に深く関わっていて、地方への移住・定住に関しては「帰りなんいざ、ふるさとへ」と言う言葉を残している。

私は急逝した立松氏の後を継いで二代目理事長に就き現在に至っている。私とふるさと

回帰運動との関係は農業支援が基本的な軸になっている。今から40年ほど前に遡るが、その頃の日本（1975年ごろ）は農薬や養殖魚への多量な抗生物質投与など、食の安全が危ぶまれる状況で、減農薬や無農薬、有機農業等に取り組む農家は少数派であった。これから子供を産み育てるため、安全な食を求めていた私は安全な食糧生産に取り組む生産者に出会い、ぜひ応援したい、どうしたら良いか訊ねたところ、「買ってください」と言う答えが返ってきた。生産者が作り続けることが出来るためには消費者である私たちが買うこと。以来私は国産を買い続けている。食糧の安全保障の為に自国産の食糧を確保できる農業体制は重要で、私の座右の銘は「食の自

給なくして 国の自立なし」。以来農業の応援団をしてきたが、農業の人材確保という点からもこのふるさと回帰運動に係わる事が出来て良かったと思っている。

2003年からは東銀座に事務所が移ったが、この頃の会員自治体数はわずか十数団体。2005年に始まったふるさと回帰フェアは2014年から会場が国際フォーラムになって参加する自治体も増え年々盛況となっている。

こうした高齢者の地方移住の動きは、1998年、雑誌「現代農業」増刊号の『定年帰農6万人の人生二毛作』によってさらに活発化する。生まれ育ったふるさとへのUターンあるいは縁もゆかりもない地方に移り住んで「定年後は農業を」を実現した人たちの体験談をまとめたものである。この号はこの手の雑誌としては異例ともいえる増刷が行われた。

## (2) 田舎暮らし志向の変化

### ◎Uターンと二地域居住

2004年、ふるさと回帰支援センターは連合の協力を得て3大都市圏居住者5万人を対象にした「ふるさと暮らしに関するアン

ケート」を実施。その結果、都市生活者の40%が「ふるさと暮らし（農村部への「移住」「一時滞在」「都市と農山漁村との交流」）をしたい」と回答していた。

2005年、国土交通省の「二地域居住人口研究会」による「二地域居住」の提言には「都市住民が多様なライフスタイル等を実現するための重要な手段となること」、「地方部において消費需要や住宅需要などを増大させ地域内に新しい雇用の確保や付随所得を向上させること」「震災等の災害に対するセーフティ・ネットの役割」といった意義が述べられており、この二地域居住のターゲットは「団塊世代」とされていた。こうした意識は自治体側にもあり「年配の人たちが移り住むことによって、介護士やホームヘルパーなどの雇用の機会をつくり、その後には働き盛りの人たちを迎える」という目論見もあったと思われる。

しかしながら、前章で触れた2007年問題の先送りもあり、こうした団塊世代を中心とした地方移住、二地域居住の動きは当初の想定ほどは起こらなかった。

◎若者の田舎志向

一方、2008年に発生したいわゆるリーマン・ショック以降の金融危機に始まる経済不況から発した雇用不安もあり、比較的若い20代から30代の移住相談もこの頃から増加しはじめています。(図1)

2005年に内閣府が行った世論調査によると、農山漁村に定住願望を持っているのは50～59歳が一番多かったが、「定住願望がある」「どちらか」とある」と答えた合計

図1 ふるさと回帰支援センター(東京)利用者の年代の推移

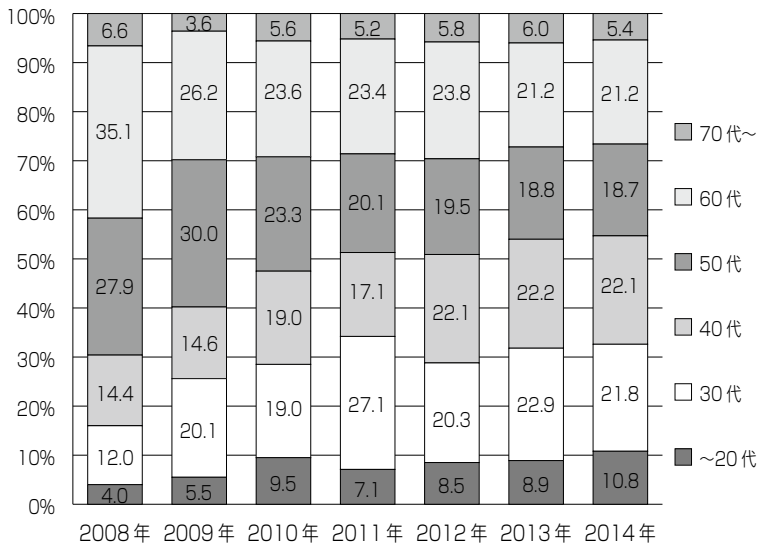
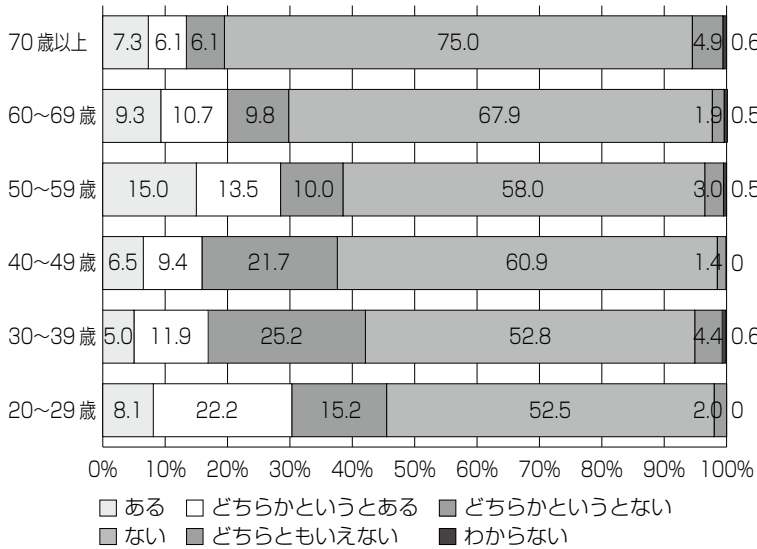


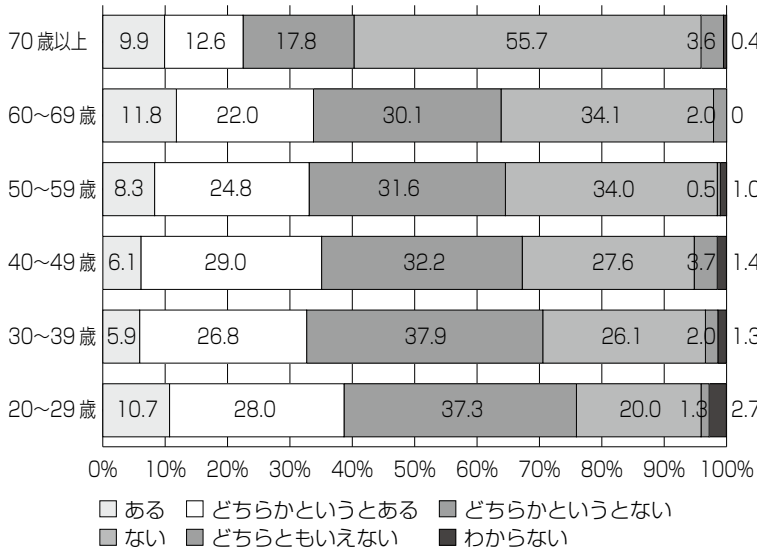
図2 農山漁村への定住願望の有無(内閣府世論調査:2005年)



では20歳～29歳が一番多くなっていた。実は地方に関心を持っていったのは団塊世代よりもこの団塊ジュニア世代であった。(図2)

図3は2014年8月に発表された最新の世論調査結果であるが、農山漁村への定住願望は「ある」と答えている人の割合は大きな変化は無いが、「どちらか」とある」と答えている人の割合がほぼ万遍なく増加しており、特に20歳代では4割近くが「定住願望がある・どちらか」とある」と答えてお

図3 農山漁村への定住願望の有無(内閣府世論調査:2014年)



り、若い世代に農山漁村への移住に関しての関心の高まりが強くなっていることを伺わせる。

こうした若者の農村志向の背景には「ダツシユ村」や「田舎へ泊まろう」などといったテレビ番組をはじめ、「ソトコト」や『BRUTUS』などのライフスタイル誌などで、農山漁村の暮らしを好意的に取り上げる機会が増えて来ていることもある。

またこうした従来メディアによる情報発信

だけでなく、地方におけるネット環境の整備も進んだことと、個人でも簡単に情報発信ができるブログの普及、そして今日ではFacebookに代表されるSNSの普及もあり、より簡単に農山漁村の生活を受発信できるようになったことも考えられる。

国の施策も従来の補助金で地域づくりを実践する動きから人的支援の動きを見せ始めている。2008年から総務省による「地域おこし協力隊」や農水省の「田舎で働き隊」などによる農山漁村に人材を送り込む事業がはじまり、若者が自らの意思で農山漁村に移り住み、地域住民とともに地域課題の解決や各種調査の手伝いなど、地域おこしに関する様々な取り組みを行っている。すでに全国で1000人以上の協力隊員が都市部から住民票を移し活動を行っており、任期終了後も約5割がそのまま地域に定住していると言われる。

それ以前の国の施策では旧国土庁が1998年からUJターン対策の一環として若者の地方体験プログラム「地域づくりイニシアティブ」事業を行っていた。これは交流を軸とした短期の滞在であったものの、都市部の若者が実際に集落活動に参加し、ヨソモノの視点から地域資源と地域課題の掘り起こし

を実践するものとしては、非常に先駆的であった。

民間からの動きとしては、地域の担い手として農山漁村1年間ボランティアとして滞在するという「緑のふるさと協力隊」事業がある。これは1994年からNPO地球緑化センターが取り組んでいる事業で、月に5万円の生活補助があるものの、あとは完全にボランティアというものであるが、これまでに600人以上の隊員を派遣し、その後の地域への定着率も4割以上という成果が現れている。

●東日本大震災

もう一つの動きが2011年の東日本大震災である。3・11以降、30〜40代の小さい子どもがいるファミリー層の相談が急増。相次ぐ余震と福島第一原発の事故を受け、安全安心な住処を求めている相談が相次ぐことになった。その結果、ふるさと回帰支援セン

ターでの移住希望地ランキングではこれまで出てこなかった「岡山県」や「香川県」などの瀬戸内地方をはじめとした西日本への希望が増え、2012年には岡山県が希望地ランキングの2位にまで急上昇している。(表1) また、若者の農村志向の動きは、ライフスタイルの転換として語られることも多い。

表1 移住希望地ランキングの推移 (ふるさと回帰支援センター・東京来場者)

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
県名	県名	県名	県名	県名
1位 福島県	1位 長野県	1位 長野県	1位 長野県	1位 山梨県
2位 長野県	2位 福島県	2位 岡山県	2位 山梨県	2位 長野県
3位 千葉県	3位 千葉県	3位 福島県	3位 岡山県	3位 岡山県
4位 岩手県	4位 茨城県	4位 香川県	4位 福島県	4位 福島県
5位 山形県	5位 岩手県	5位 千葉県	5位 熊本県	5位 新潟県
6位 茨城県	6位 大分県	6位 島根県	6位 高知県	6位 熊本県
7位 宮城県	7位 富山県	7位 大分県	7位 富山県	7位 静岡県
8位 山梨県	8位 熊本県	8位 鳥取県	8位 群馬県	8位 島根県
9位 静岡県	9位 秋田県	9位 宮崎県	9位 香川県	9位 富山県
10位 宮崎県	9位 宮崎県	10位 和歌山県	10位 鹿児島県	10位 香川県
11位 北海道	11位 新潟県	11位 山形県	11位 栃木県	11位 石川県
12位 秋田県	12位 栃木県	12位 高知県	12位 新潟県	12位 千葉県
12位 岐阜県	12位 山梨県	12位 鹿児島県	13位 山口県	13位 群馬県
12位 大分県	12位 鳥取県	14位 滋賀県	14位 島根県	14位 秋田県
15位 栃木県	15位 石川県	15位 山梨県	15位 大分県	15位 山口県
16位 福井県	15位 岡山県	16位 埼玉県	16位 茨城県	16位 長崎県
17位 鹿児島県	15位 鹿児島県	17位 愛媛県	17位 石川県	17位 茨城県
18位 群馬県	18位 山形県	18位 熊本県	18位 福井県	18位 広島県
18位 和歌山県	19位 群馬県	19位 栃木県	19位 千葉県	19位 高知県
20位 富山県	19位 岐阜県	19位 山口県	20位 北海道	20位 和歌山県
19位 静岡県	19位 静岡県			

N=775                      N=406                      N=1017                      N=1642                      N=2885

1999年に環境問題を「我慢しないエコ」としてライフスタイルの一環として取り上げる雑誌『ソトコト』が発刊され、2002年には雑誌『現代農業』の増刊号として「青年帰農」が出版された。ここでは「新しい生き方」として今では有名になった「半農半X」というスローライフを提唱した塩見直紀氏も

取り上げられ、従来の価値観とは違った移住者像が紹介され、2005年には同じく「若者はなぜ農山村に向かうのか」という増刊号が出され、都会から農村に向かい、新しい価値観を持ちながら地域で暮らしていく若者を紹介している。

こうした「アメニティ・ムーバー」と呼ばれる自らの意志でライフスタイルの変容を実践していく移住者は今後とも増えると予想されるが、同時にそのなりわいづくりも課題となってきたりしている。

### ◎悠々自適から

#### 自分らしい暮らしへ

団塊世代の地方移住の動きが爆発的に起こらなかったとはいえ、実際にはかなりの方が地方移住を実践している。ただし、当初想定していた自然豊かな場所での「悠々自適」という暮らしから、自分らしい暮らし、いわゆるライフスタイル移住が増えつつある。

秋田県三種町に移住したYさんは、大手IT系の企業を早期退職し、自

分の実家と奥さんの実家の中間地点とも言える場所で農園レストランを起業。起業までの準備期間に地域との関係を作りながら食材供給先を探し、信頼できる生産者から納得できるものを仕入れてレストランにて提供。味と雰囲気の両面から評価され、今では予約が必ずやなくらいの人気店になっている。(写真1、2)

和歌山県古座川町に移住したIさんは、実は世界的に知られるオーディオケーブルの製作者でもある。1990年にヨーロッパのオーディオ誌で絶賛され、その評価が逆輸入されて、知る人ぞ知る職人だった。廃校になった小学校の工作室を工房として、70歳を超えた今も手作りでオーディオケーブルを作成している。モノづくりは都会でなくてもできるし、売り先は国内だけでなく海外もというのであれば、場所は関係なくなる。(写真3、4)

### 地方移住は地方創生につながるか？

#### ◎地方移住の裾野の広がり

ふるさと回帰支援センターの相談者も実は年々増加傾向にある。(図4) 首都圏での移



写真1



写真3



写真2



写真4

住希望者は年々増加傾向にあるが、これは国や地方自治体が移住支援策を展開してきたからではない。

これまでもリゾートブームやバブル期における脱サラ・ペンション起業といった動きや、2007年の団塊世代の大量退職に伴い増加してきたシニア移住など、さまざまな社会変革期において地方に向かう動きが起こってきている。

2015年は昨年度からの地方創生の動きに乗じて、各自治体が移住者受け入れに本腰を入れる年になった。当然、人口減少対策としての位置づけであり、地方創生交付金を活用して新たな活動が行えるようになったことが大きい。

東京・有楽町のふるさと回帰支援センターにもこれまでの福島県、岡山県、山梨県、青森県、広島県の5県に加え、4月から新たに22の県と政令市が専属相談員を配置することとなった。マスコミなどでは「移住者獲得合戦」というような言葉も使うようだが、これは間違いであり、これまで以上に全国の市町村の移住情報が入手しやすくなったと言うべきであろう。

2014年中に136回開催された移住相

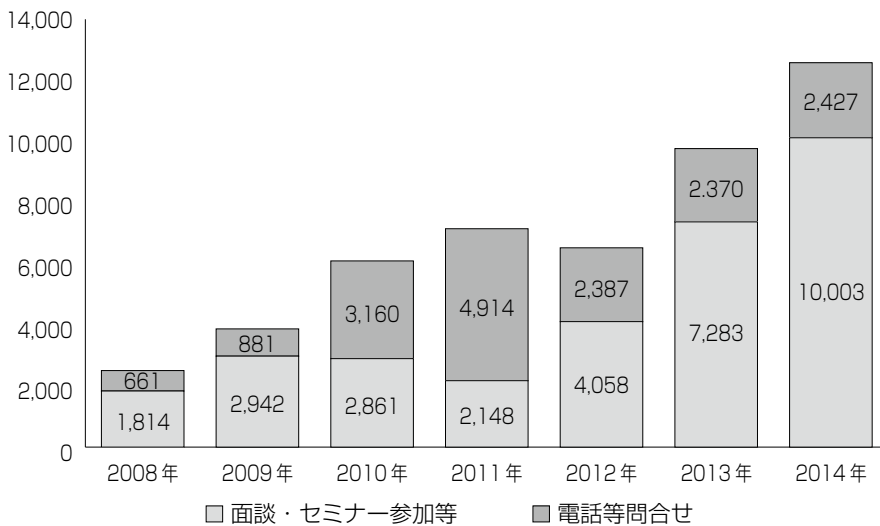
談会は2015年の12月までの1年間で300回になる。週末になると、それぞれの県の実施する移住相談会・セミナーが複数回行われているのである。開催数が増えてきたため、単純な地域紹介だけでは人が集まらず、従来人が集まっていた地域でも集客に苦勞している。例えば2年前であれば「子育て」というキーワードがチラシに入っていたら集客できたが、最近ではゲストの先輩移住者が「どんな暮らしをしているか」といったより具体的な内容や、「空き家の活用」や「新しい働き方」などテーマを持たせてのセミナーに人が集まるようになってきている。

具体的な地方移住のイメージが固まっていない、いわゆる「漠然層」が増えてきた。地方移住希望者の裾野が広がった、あるいは一般化したとも言えるだろう。

その時々時代の背景、また景気によって地方移住の動きは常に変化してきた。しかし

ながら地方出身でない、「地方を知らない若者」が地方に向ける眼差しの変化は単なる移住ブームとは呼べないのではないか。また、一時のブームと呼ばせないためには、地方移住の本質的な部分である「地方ならではの魅力」を地域住民自らが体現していく必要がある。

図4 来場・問い合わせ件数の推移



	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
面談・セミナー参加等	1,814	2,942	2,861	2,148	4,058	7,283	10,003
電話等問合せ	661	881	3,160	4,914	2,387	2,370	2,427
合計	2,475	3,823	6,021	7,062	6,445	9,653	12,430
セミナー開催数	54	84	77	65	90	113	136

※毎年1月～12月までのふるさと回帰支援センター（東京）への来場者・問い合わせ等の集計

# ふれあいトークサロン

第23回 平成27年7月10日(金) (参加者20名)

■税理士法人スバル合同会計ビル 四階において開催

第24回 平成27年11月13日(金) (参加者24名)

■OMGパートナーズビル 三階において開催

## 〈第23回〉

### インド、タイ、ヨルダン、ハワイで 過ごした20年間(私の人生行路)

西脇 誠五郎

#### 一、二毛作の人生

題字にインド、タイ、ヨルダン、ハワイ(米国)と4カ国の名前が書いてありますが、最初の3カ国を計6年間駐在員として過ごし、定年後ハワイで僧侶として14年間過ごしました。そして3年前に日本に戻ってまいりました。私は人生二毛作を楽しんだと思っています。「毛」とは作物のことです。二毛作とは2種類の違う作物を作る、という意味です。60歳まではエンジンニアとして仕事をし、その後何故か坊主になりました。サイエンス、フィジカルの世界からスピリチュアルな世界に移行し、その間ずっと海外に居たのです。

#### 二、海外生活

海外生活を20年やってきて一番に思うことは、「日本人で良かった」この一言に尽きます。まず、日本の自然。色彩豊かで四季折々の自然が楽しめる。それから日本人の心根の優しさを感じます。海外へ行って戻ってくるとつくづくそう感じます。乗り物に乗ると若い人が席を譲ってくれる。「ありがとう。」と言って譲ってもらいます。こういうときは素直に好意に甘えたほうが良いですね。その次に日本は医療費がべらぼうに安い。健康保険が整備されているので自己負担が少なくて済みます。米国で生活していて困るのは保険料がとても高いし容易に入れません。救急車を呼

んだだけで5万円はかかりますし、数日入院しようものなら100万円程覚悟しなければなりません。その点を考えると日本は素晴らしい。

まずインドのニューデリーで4年間発電プラントに携わりました。余談ですが海外で仕事をする上で一番大事なことは何だと思えますか? それは有能な弁護士を雇うことです。次に大事なのが有能な会計士を雇うこと。少々コストが掛かるうがこの2つをケチったら駄目です。

ある時、工員がバタバタと倒れました。デング熱が流行ったのです。他にも色々な病気にかかりました。日本人は病気になるまで皆「日本食が食べたい」と言います。実際に食べるのと直ぐに体調が戻るのです。だから何とか工夫して調達しました。お粥が作りたくても現地米は硬いのでお粥にならない。そこで考えて、精米する前のコシヒカリの玄米を真空パックにして取り寄せて、食べる都度卓上精米機で精米しました。日本で食べるよりはるかに美味しかったです。

タイで驚いたのはゴルフをしたときです。キャディが1人に4、5人付くのです。1組に4、5人付くのではなく1人に対してです。バックを担ぐ係、傘をさす係、イスを運ぶ係、そんな具合です。

ヨルダンはとても親日の国です。そして中



東にありながら石油が採れないのです。王制を敷き皇室があるので日本と仲が良く、当時からODAで莫大な援助をしていました。我々は国の運営する配電システムの損失低減プロジェクトを行っていましたが、その施設も日本の援助で建てられたものでした。車で走ると映画「インディジョーンズ」や「アラビアのロレンス」に出てくるような風景が広がっていました。有名な「死海」があるのもヨルダンです。

敬虔なイスラム教の国で、特徴的なことがありました。借りた家の応接間が2つあったので何故かと聞いたら、男性用と女性用だという答えでした。男性と女性は決して席を同じにしないのです。滞在中に一度結婚式に招待されました。披露宴会場が全員男性なのです。女性は建物すら違うということでした。

しかしこういうことはその国その国の事情がありますから、外国人である我々が軽い気持ちで「それはいけない」などと言わない方が良いと思います。それなりの深い理由があったりするわけです。仏教だって男尊女卑の思想は少なからずありますからね。

### 三、エングニアから僧侶へ

何故エングニアから僧侶になったのか、一言で言うと「縁」です。皆さんが奥様、ご主人と結婚したのも縁ですよ。背景としては、

①実家が熱心な仏教徒だった。だから元々人並み以上に興味があったことは確かです。

②海外に暮らしていると、宗教はすぐ隣にあります。よくあなたの宗教は？ と聞かれます。日本人は無宗教であると答えがちですが、外国人からすると理解し難いようです。

③新しいことにチャレンジしたくなっていた。一所懸命エングニアを貫いてきましたが、年齢的に新しい人生を切り拓こうという考えに至りました。

森鷗外も医師だったのに小説家になりましたよね。こういうことは全て縁だと思っています。皆様もこれからでも遅くはないですよ。

58歳のとき東京国際仏教塾に入塾し、翌年僧籍取得、ハワイのホノルルで僧侶として生活を始めました。

ハワイ州の人口は140万人程で、その内

で日系人は1/2割でした。行ってみて感じたことは、日系社会には明治時代の日本人魂がそのまま残っていてしつかりと日本人社会が形成されている点でした。お寺は各宗派全てありました。夏には毎晩、昔の日本のように盆ダンスを全員総出で踊っていました。今の日本よりも古き良き日本が残っているのがハワイの日系社会なのです。

### 四、仏教の教え

最後に仏教の教えについてお話したいと思います。

仏教とは、この世でどうしたら苦しみから救われるかを教えるものです。ですから仏教本来の意味は、現世をいかに生きるかという哲学論なのです。しかしそれが時を経るごとに迂余曲折ありまして、あの世のことばかりがクローズアップされるようになりました。「ご先祖を敬いましょう」「お墓参りをしましょう」と、亡くなった人をお祈りすることが仏教の教えのようになっていますが、本来は先程述べた「現世をいかに幸せに生きるか」なのです。

ここにお釈迦さまのいい教えがあるのでご披露しておきます。

全てが、あなたにちょうどいい。

今のあなたに、今の夫がちょうどいい。

今のあなたに、今の妻がちょうどいい。  
今のあなたに、今の親がちょうどいい。  
今のあなたに、今の子供がちょうどいい。  
今のあなたに、今の兄弟がちょうどいい。  
今のあなたに、今の友人がちょうどいい。  
今のあなたに、今の仕事にちょうどいい。  
死ぬ日もあなたにちょうどいい。

こういうふうにと考えると楽になるのです。今の自分の現実を否定するから苦しむのです。「もつともつ」と欲ばりになっては苦しいだけです。欲を捨て、今の自分に満足、そして感謝することがとても大事です。

もうひとつ、昭和初期の詩人である金子みすゞの「大漁」という詩をご紹介します。

朝やけ小やけだ 大漁だ  
大羽鯛の 大漁だ  
浜は祭りの やうだけど  
海のなかでは 何万の  
鯛のとむらい するだろう

これは自己だけでなく他己を考える上で非常に染みる詩ですね。自分が嬉しい時、楽しい時に他者を思いやる気持ちが大切ということです。

それと皆さん、神社やお寺をお参りするとき、神様にお祈りしますね。

「いい人が見つかりますように。」  
「いい大学に受かりますように。」  
「商売繁盛しますように。」  
でも、本当はお願いするために祈るのではないのです。お祈りは、

「いい人とご縁ができてありがとうございます。」

す。  
「いい仕事に就けてありがとうございます。」  
と、感謝するために祈るのです。  
皆様も本来の教えにのっとり、常に感謝の気持ちで素晴らしい人生を歩んでください。  
(抄録 山田雅彦)

## 〈第24回〉

### 第一部 株式市場の構造と見通し

大和証券 投資戦略部 シニアストラテジスト 細井 秀司

### 第二部 金融所得課税の一体化の概要

大和証券 営業企画部 副部長 長島 義浩

#### 第一部 株式市場の構造と見通し

##### 一、金融市場の中の株式市場

株式市場は金融市場の一部です。金融市場には直接金融と間接金融があります。間接金融の代表的なものが銀行です。銀行は人から預かったお金を誰かに貸すことにより貨幣を流通させています。銀行を経由するから「間接」です。対して直接金融というのは、お金を欲しいと思った主体が直接出資者に訴えかけることです。直接金融には株式市場と債券市場があります。出資してほしい会社、団体等が投資家に株式や債券という形で出資を訴える

わけです。

日本の場合、資金調達の方法は間接金融がほとんどです。しかし、金融ビッグバン（金融市場の制度改革）が起きた1990年代後半から「直接金融を伸ばしていこう」という変化が起こり、今もその動きは続いています。

##### 二、投資家から資本効率化を突きつけられる市場

それではもう少しこの市場を分析してみたいと思います。例えば皆様ご自身が勤めていた会社の株式を持株会等で結構所有していたとしましょう。勿論配当も欲しいし株価も上がって欲しいですよ。だから会社の業績が



良くなるように会社に対して意見したい。企業に対して意見できるのは株主だけなのです。株式というのは会社の持ち分を切り出した証券ですから株主総会に出席して意見を述べる権利があるわけです。一株でも持っていれば株主です。近年この「株主重視」の流れが更に強くなってきました。

最近新聞等で「コーポレートガバナンス」や「スチュワードシップ」といった言葉を見かけることがあります。本来株主とは、また投資家とは、その企業を監督、意見、管理し育てていく責任がある、ということを提言したのが「スチュワードシップ」責任ある行動」です。一方企業側もそれに見合った体制が必要で、そこで「コーポレートガバナンス」企業統治」をしっかりとやりなさい、ということになるわけです。

コーポレートガバナンスに則って企業は長期の戦略を打ち出す必要があります。その上で投資家から「資本の効率化を進めなさい」と要求されるようになったのです。資本効率を数値に表したのが「株主資本利益率（ROE＝Return of Equity）」といわれる指標です。以前はROEを気にするのは海外投資家を中心でしたが、ここに来て政府がこれを重視しようという動きになっています。要するに責任ある行動をとる投資家がいって、一方きちんと企業統治を行う会社がある。その関係こそが健全な株

式市場を形成するという考え方です。

### 三、上場株式の最大の株主は外国人

1989年末、日経平均株価は38915円まで上がり、その後景気後退と共に下げ、一時は7千円台にまで落ち込みました。その当時と今とで何が違うのか、というのを図1でお見せしたいと思います。

1986年から経済が加熱していったまさにバブル景気と言われた頃、日本の株式市場における外国人の保有比率は僅か5%程度でした。それから年月を経るごとにその保有率はどんどん上がっていきます。それに対して一番の保有主体であった銀行や生損保は、当初保有比率が各々20%程度だったのが今やほぼ5%ずつにまで下がっています。その背景には資本規制が入り始めたことがあります。国際決済銀行（BIS）から出された「BIS基準」をクリアしなければならなかった。株式を保有しているとそれが「リスク資産」となるわけです。株価は常に変動するものだから、減少する危険もあります。だから株式の持ち分を減らさなさい、となり、銀行は手持ちの株式を売ったのです。

銀行が売った株式を誰が買ったのかというと外国人投資家なのです。そして今や、日本の株式市場における保有比率のトップは外国人で、図1を見ていただくと分かる通り、全

体の30%以上を保有しています。上場企業の三分の一を外国人が保有している時代なのです。ですから先程の「スチュワードシップ」や「コーポレートガバナンス」は、国内だけで資金が回っていればあまり意識しなくてもよかったです。これだけ外国人保有率が増えると海外投資家がみている基準を日本も取り入れざるを得なかったということです。

### 四、株式市場の取引量

更に日々の取引データを見てみましょう。東証一部の1日当たりの株式の売買代金は2兆円を超えており多い日は3兆円にも達します。そして、ご覧のとおりその7割が外国人の資金なのです（図2）。それから国内の個人投資家が2割、残りの1割が国内の金融機関や事業法人等の運用資金です。いかに海外のマネーが日本市場を動かしているか、お分かりいただけると思います。

結果として今の東京市場は、相場の動向は海外投資家がどちらに動くかで決まっています。もう構造的にそうなっています。

### 五、投資家が気にするROE

先ほどROEという指標のお話を少ししました。「株主資本利益率」の意味でしたね。これをもう少し詳しく説明致します。

図3を見てください。下段に「ROEの3

分法」と書いてあります。今まで日本の企業はこの3つの中で重要視していたのは一番右側です。要はどれだけ利益を出すか、に注力していたのです。しかし2010年頃からいよいよデフレが酷くなり円高がさらに進み、「売上が伸びない、利益も増えない」という局面になってきました。すると海外の株主からプレッシャーがかかるのでROEを上げるために他の二つの数値に注目し、分母である総資産や株主資本を減らせばよいのではないかと考える企業が増えてきました。この流れを加速したのは、アベノミクスを断行する中で安倍首相が「日経225やTOPIXよりも優秀な指標を作りなさい」と指示したことによりです。それによつて出来上がった指標が「JPMX日経400インデックス（以下、JPMX400）」と言われる指標です。あまり知られていませんが、実は日経225やTOPIXの選考基準というのは大した基準ではなかったのです。時価総額が大きい、とか日々の売買

図1 投資部門別株式保有比率の推移

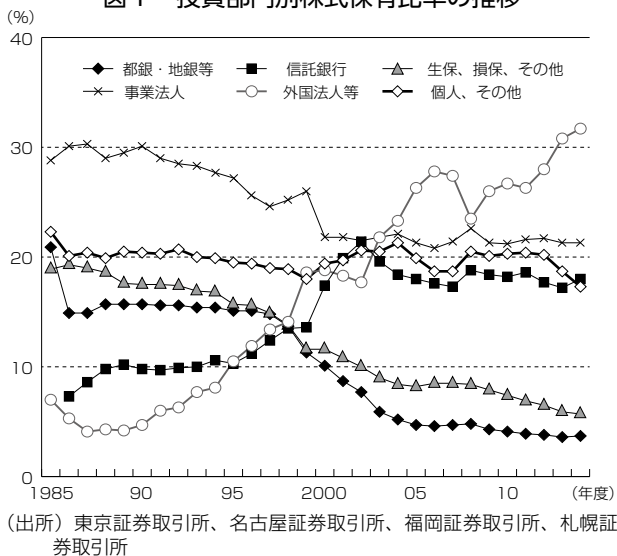


図2 2市場合計投資部門別売買比率、外国人と個人(週次)

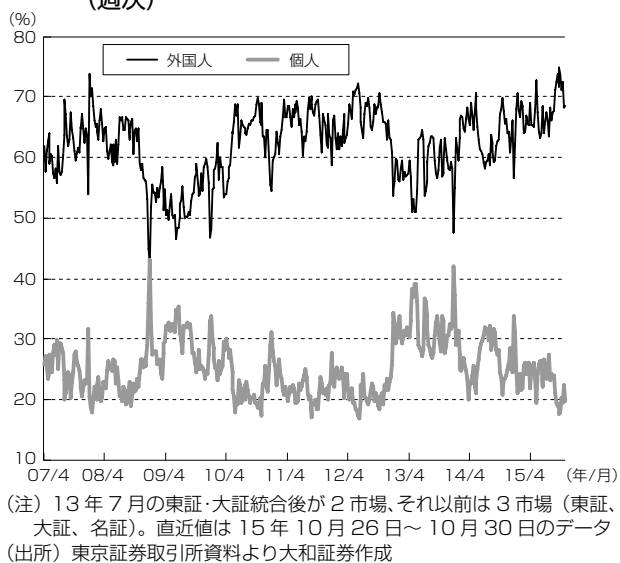


図3

$$ROE (\%) = \frac{\text{一株当たり利益 EPS (Earning Per Share)}}{\text{一株当たり株主資本 (Bookvalue Per Share)}} = \frac{\text{当期利益}}{\text{株主資本}}$$

ROEの3分法

$$\frac{\text{当期利益}}{\text{株主資本}} = \frac{\text{総資産}}{\text{株主資本}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{当期利益}}{\text{売上高}}$$

財務レバレッジ	総資産回転率	売上高当期利益率
---------	--------	----------

(出所) 大和証券

代金が多いとか、つまり株式総額が大きい企業が選ばれ易かったわけです。しかしながらこのJPMX400に選ばれた400社は時価総額の大きい企業の中から「3年平均ROE」や「3年累積営業利益」という数値が高い企業をさらに絞った選定となっています。即ち企業の規模だけでなく業績を重要視したのです。そして昨年あたりから、このJPMX400をベンチマークとしたファンドに資金を入れましょう、という動きが年金基金や共済などに出始め、国民年金を運用するGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)、これは世界最大の年金運用機関ですが、2015年3月末で既に1兆円を超す資金を投じています。

皆様もご自身が受け取っている年金の運用先をチェックされたほうがいいと思います。相変わらずTOPIXをベンチマークしているままなのか、JPXのような新しい指標を取り入れた運用なのか。運用主体がちゃんと直近の金融動向を見据えた方法を取っているかどうかは非常に重要だと思えます。旧来のまま変わっていないければ何故取り入れないのか質問する必要があると思います。

## 六、最近のROE動向

ここ10年でROEが最高の伸びを示したのは2007年リーマンショックの前年で、10%を超えました。現在はどうかというと、確かに

めぼしい企業の業績は良く、過去最高益を更新しています。が、ROEは2007年に記録した10%を未だ超えられないのです。それは何故かという点、自己資本の額も伴って増えているからです。分子の数値が上がっても分母も増えれば変わらない。では何故企業は自己資本を増やすのか。それはリーマンショックの時金融収縮が起こり銀行がお金を貸してくれなかった。だから経営者は何かあった時のために利益を社内に留保し備える、という体制になったためです。しかしながら、それではROEが良くならない。そこで自己資本を減らすためにもの凄く増配したり自己株式の買取をする会社がここところ多いのです。

## 七、上場企業の配当利回りが増えてきた

そんなわけで、各企業の配当率が上がっています。そのあたり、皆様関心が高いのではないでしょう。普通預金の利率が0・03とか0・04、10年物の国債利回りも0・3%しかない。ですが株式の配当利回りは年間で1・72%あります（東証一部市場平均）。

## 八、世界情勢と今後の見通し

今世界には7兆ドル（840兆円）もの投資資金が駆け巡っています。しかも増え続けていますのでそれが世界の株価を押し上げています。主には各国の中央銀行が行っている「量

的緩和」による資金です。例えば日本では日銀が毎月6兆7千億円ものお金を供給しています。それを債券を買い取る形で銀行に渡し、貸出しを増やすことで景気を良くしようとしているのですが、実際にこの10月のデータを見てビックリしました。貸出額が2兆円減っているのです。借りるところが無いのです。そんな状況ですから8兆7千億円ものお金が余ってしまっています。こんな算筒預金のようなお金を銀行が持っていないでしょうから日銀に預け返すわけです。そしてそのうちの何%かが色々な主体を通して最終的にヘッジファンド等に流れていると考えられます。

こういった世界的緩和資金が今年の夏場に突如減少したのです。このことが2015年8月の株価下落のひとつの原因だったのであろうと推測されます。その原因は原油市況です。原油価格の下落によるオイルマネーの動向が8月のチャイナショックによる株価下落の振り幅を大きくしたと考えられます。

サウジアラビア、ロシアといった産油国の外貨準備高が2014年あたりから連続で減少しています。原油価格は2014年半ばに1バレル当たり100ドルだったのが今、40ドル近くにまで下落しています。

今後の市場動向の見通しを予測する上で一番気がかかるのはこのオイルマネーです。原油価格下落の要因は米国のシェールオイル・

シェールガス開発による安価なエネルギーの出現ですから一過性のものではありません。サウジの原油価格の採算ラインは1バレル当たり50ドルと言われていますから、今後このままの水準が続けば産油国は大幅な財政縮小をせざるを得ない状況です。日本国内だけで見れば原油の値段が下がって喜ぶ人が大半ですが、世界の経済情勢からみて原油価格は少し戻したほうがいいでしょう。

次に主要国の企業業績ですが、おしなべて減速しています。そんな中で日本は悪くないのです。一株あたりの利益の伸び率を見ても日本が一番伸びていますし、主な企業の増益率も2桁の伸びを示しているのは日本だけです。ですから秋口に一度引込んだ資金が再度投じられる際には日本を投資先に選ぶ投資家がいると考えられます。

米国も復調傾向で、失業率が5年連続で下げ続け、新車販売高、中古住宅販売といったデータも軒並み上がっています。金利の上昇も消費を後押しすると思います。

最後に、運用先として馴染みのある、外貨と「金」について触れておきます。

国際決済銀行が発表している実質実行為替レートを見てみますと、まず米ドルは利上げの影響により高くなっています。金利の上昇により米ドルに資金が集まる傾向です。相対的に日本円はしばらくは円安方向ではない

かと考えます。

それから「金」はどうかというと、統計を見ると金と米ドルの為替レートはとても関係が深いことが分かります。はっきりと、逆相関の関係なのです。ドルが高くなれば金の価格は下落する、逆にドルが安くなれば金の価格は上昇するといった関係です。これは金がドルの代替通貨としての役割がある為と考えられます。金に投資する際はこの流れを頭に入れて行動なさったほうがよろしいかと思えます。

以上、株式市場の動向と世界情勢に関してざっとお話ししました。これらが皆様の資産運用の参考になれば幸いです。

最後に、あくまでも投資に際しては自己責任でお願い致します。

## 第二部 金融所得課税の一体化の概要

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、2016年1月から金融所得課税の一体化に伴う税制改正が行われます。これまで株式や株式投信の売却益に課されていた税金と、公社債や公社債投信の売却益に課されていた税金は異なっていたのですが、2016年1月1日よりこれを一体化、つまり税金の計算が統一されシンプルになります。

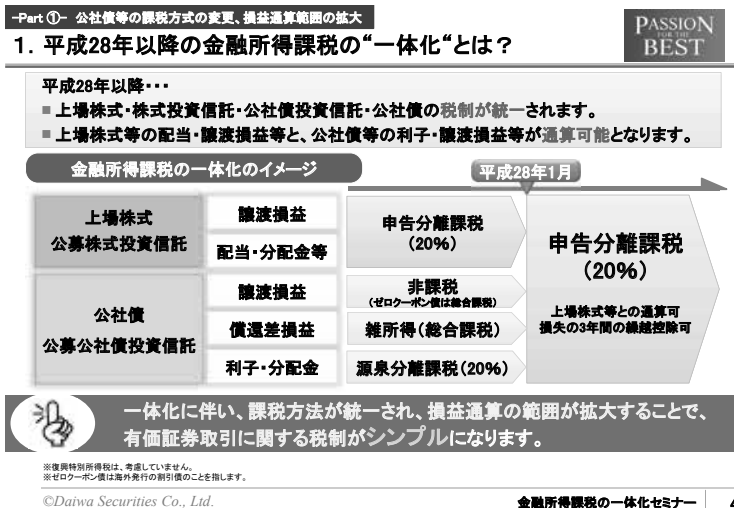
具体的には図4にあるように、それぞれい

くつかの課税方法に分かれていたものが申告分離課税20%に税金の種類と税率が一本化されます。

(注) 実際には復興特別所得税として0.315%が上乘せされます。

今までは非課税だった公社債の売却益が20%課税されるようになりますが、メリットは、一体化されることで株式等の損益と公社債等の損益を通算できるようになります。また、損失は3年間に渡って繰越が可能となります。ですから、例えば公社債投信を売却して利益が出た場合でも、株式で損失が発生し

図4



ていけば最終的な利益にしか課税されない、ということなのです。

ただし、申告分離課税ですから利益が出た場合には申告して納税する必要があります。とは言うものの、「税金の計算が面倒だ」「儲かったけど税金のことはよく分からない」といった方も多いことでしょう。

そこで、証券会社では「特定口座」というものを用意しております。既に株式取引や投資信託等で特定口座を利用されている方もいらっしゃるでしょうが、今回の税制改正に伴い公社債、公社債投信等も特定口座で管理することが可能となりました。そうすれば税金の計算を皆様に代わって証券会社が行いますのでとても便利です。

尚、2016年1月1日時点で既に特定口座を開設している人は皆様の所有している公社債や公社債投信等は、原則自動的に特定口座に組入れますので何もする必要はありません。しかしながら、取引している証券会社で未だ特定口座を開設していない方は改めてお問い合わせされたほうが良いと思います。

最後に、大和証券では(公社)日本産業退職者協会の法人会員として今後も皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、何かありましたらいつでもご相談いただければと思います。

(抄録 山田雅彦)

# 認知症の人々への支援を考える

山鹿 素雄

今回のタイトルは「きたざわサロン」

で8月21日に行われた勉強会のテーマです。私達は認知症予防として「きたざわサロン」を運営し活動を続けて来ましたが、

その間2011年2月に、スタッフの半数は認知症サポーターの講習を受講済みですが、あらためて知識を整理し、より充実した活動実践を目指すため「下北沢あんしんすこやかセンター」の協力を得て、夏休みを利用し、8月に行っているスタッフのみの勉強会のメインイベントとして企画したものでスタッフ15名に加え日退協事務局長も参加して行われました。

認知症の定義、種類、症状を復習し、医療の進歩も考えた中で、早期発見と早期対応がいかに大切かを再認識しました。ここで参加者は3名ずつのグループに

分かれて、発症者の事例をもとに

「認知症になった人の気持ちになって考える」

「認知症の家族の気持ちを考える」

についてグループ討議をし、皆さんの討議内容の意見交換をしました。さすがにサロンの体験や実際に家族など、身内の経験もあったりして極めて活発で有意義な時間を過ごせました。

ここで認知症の人へのかかわり方は

「自尊心を傷つけない」

「正面からゆっくり話そう」

「簡単に伝える」

「わかる言葉を使う」

「相手に話を合わせる」

「感情に働きかける」

「フルネームで呼ぶ」

「必ずしも本当の事を言う必要はない」等を学びました。

さらに好ましくない対応は「指示」「理屈攻め」「否定」は逆効果とも学びました。

一つ一つのフレーズは簡単ですが、とても考えさせられると共に、皆が理解を深める時間でした。皆様も参考にして頂ければ幸いです。



勉強会風景（下北沢あんしんすこやかセンター）

# 《第12回》チャリティコンサート〜友情と希望〜

## テレビの人気歌手 更に加わり一段と華やか 社会貢献活動への理解広がる

### 昨年を上回る反響、感動の声

今回は、昨年よりもチケットの販売枚数が増え、福祉施設の方々のご招待を合わせた参加者総数は、600人となりました。当協会会員の社会貢献への理解と協力は着実に深まりました。

特別にアンケートをお願いしたわけでもないのに、ご招待した福祉施設の方々から、胸を打つお礼状が次々に寄せられています。当日、会場では運営委員などへ「出演者の思いを込めた歌声に、お仕舞いの頃には涙が出ておりました」といった感動の声が伝えられました。こうした反響、盛況の主な要因は、次の三つだと思います。

#### ◆第一、華麗な出演者

BS日テレ（毎週月曜日夜）『ここらの歌』

で人気を博している榛葉樹人さんのお仲間である塩入功司さんも新たに友情出演。初登場

のメゾソプラノ望月友美さん共々、赤塚太郎さんの構成するアンサンブルに新風を吹き込み、厚みを増しました。

ソプラノ芝沼美湖さん、フルート谷藤万喜子さんを合わせた6人のアンサンブルが、当協会チャリティコンサートの華として今後ともご貢献頂きますよう祈念しています。

#### ◆第二、社会貢献の意義浸透

「チケットを一枚購入することで福祉施設の方をお一人お招きし、共に楽しませよう」という合い言葉が効を奏してきました。昨年は創立30周年記念で、チケットの販売枚数は一昨年の2.7倍と過去最高を記録しました。今年はその反動落ちが懸念されましたが、なんと38枚増えて363枚と最高記録を更新し

開催…2015（平成27）年11月7日  
会場…六本木・ハリウッドホール  
後援…東京都社会福祉協議会・善意銀行  
学校法人メイ・ウシヤマ学園  
◇プログラム掲載…当協会ホームページ

ました。合い言葉による社会貢献の意義の周知が広がったといえましょう。

これもひとえに、三人の女性理事、大里さん、糸数さん、倉片さんのリーダーシップの下、地域会、四季の会の皆さんの熱意ある普及活動の賜物です。

（注）福祉施設の方々のご招待者数は、昨年よりも減少し228人でした。今回は出演者のご都合により開催がひと月遅れの11月となつて、ご後援を頂いている善意銀行に係る同種の他の行事と重複したことがその原因です。

#### ◆第三、様々な観客に響く企画・構成

ピアノスト赤塚太郎さんの企画・構成の巧みさが、人びとを呼び寄せています。『涙そうそう』『見上げてごらん夜の星を』など聴き馴染んだ歌。ミュージカル『ウエスト・サ

イド・ストーリー』、オペラ『蝶々夫人』などよりの名曲。クラシックの歌手が情感を込めて歌い上げ、最後に会場の全員で合唱。音楽の通人にも、普段は音楽に縁遠い人にも、それぞれに興味と感動を齎すのです。

## 福祉施設の方々から 胸打つお礼状

「障害のある娘と二人で楽しませて頂きました。音楽のすばらしさはもちろんのこと、出演なさった方々のお人柄や親しさなどが、コンサート全体をとってもあたたかい雰囲気にして大変心地よいものでした。娘も気持ちよさそうに聴き入ったり、一緒に歌ったり、楽しい時を過ごせました。」(R・W)

「このような貴重な機会を家族や仲間、スタッフと共に体験できたのは、非常に嬉しいことでした。また、会場ではスタッフの皆様にとっても親切にしてください、心より感謝しております。」(ハッピーライフフォーエバー／Y・O)

「ハリウッドホールという一流の会場で、一流のアーティストの方々素晴らしい演奏と歌を聞かせていただき、楽しい時間をありがとうございました。」(巣立ち工房／N・M)

「皆様々華々がありました。私も前に出て踊りたかったです。私も早くクラシックバレエに復活したいです。」(巣立ち工房・Y)

「エルガー作曲の『愛の挨拶』のオープニングでチャリティコンサートに引き込まれました。」

「施設の利用者はもとより、我々福祉に従事する職員にとりましてもなによりの励みです。」「来年もまた六本木のこのコンサートに来てみたいです。」と期待も含め、様々な声が寄せられたのです。

出演者の方々からも、「意義深いチャリティコンサートに呼んで下さるのは大変嬉しいです。来年もぜひよろしく。」と有難いお言葉を頂いています。

ご後援を賜っている善意銀行、メイ・ウシヤマ学園の関係者はじめ、多くの支援者の皆様、来年もまた宜しくご協力の程お願い申し上げます。

(コーディネーター有馬弘純)



『虹の彼方に』を歌う  
ソプラノ・芝沼美湖



『エーデルワイス』を歌う  
バリトン・塩込功司／メゾソプラノ・望月友美



曲目の解説をする  
企画・構成：ピアノ・赤塚太郎



開会を待つハッピーライフフォーエバーのみなさん



『見上げてごらん夜の星を』を歌う  
テノール・榛葉樹人



『花の二重唱』を演奏する  
フルート・谷藤万喜子

## 世代間交流の『かがやきサロン杉並』 音楽と生活情報を軸に共助の街づくりを支援

サポーター代表 満田 将太

『かがやきサロン杉並』の原点は、平成26年4月、杉並区の西荻窪で発足したシニア層の社会参加を支援する地域密着型の『サロン』です。シニアと若者の世代間交流を音楽と生活情報を軸に、毎月、独自のスタイルで進捗してきました。平成27年12月までに18回開催し、様々な音楽の演奏会や参加型の生カラオケ、生活に役立つ情報提供の講座やカルチャー講座、健康体操などを行ってきました。

平成27年1月には、西武信用金庫様より第2回「街づくり活動助成金」を頂きました。

### ■人気を博す多彩な音楽演奏会や生カラオケ

音楽イベントは、プロやシニアデビューした歌手などの演奏者の協力を仰ぎ、クラシック、シャンソン、ジャズ、三線、フォルクローレ、フォークソング、カンツォーネ、iPad演奏、その他様々なジャンルの



生演奏で人気を集めました。また、珍しいピアノとギター伴奏による『生カラオケ』の企画には、のど自慢のシニアが集い、全員合唱も含め、盛り上がりを見せてきました。

### ■お役立ち情報講座の反響

生活に役立つ情報講座では、公的資格を持つ専門家などの講師が、「プロが語る生命保険講座」や「弁護士・税理士による相続税教室」「振り込め詐欺防止教室」「介護保険・高齢者



住宅講座」「定年後に夢を

叶えた話（マッターホルン登頂記）」などを開催。

相続など関心の高い講座には、質問や相談が持ち込まれるなど、思わぬ反響に手応えを感じました。

また、カルチャー講座



では、「アロマ講座」「絵手紙教室」「水引講座」「簡単にいい写真が撮れる講座」「7分間若返り体操」「シニアのためのiPad講座」などを開催し、「絵手紙教室」は当協会本部の同好会活動へと発展しました。

### ■今後の目標

『かがやきサロン杉並』は、一年半を超える活動の中で毎回楽しみに参加する方も少しずつ増えてきており、大変ニーズのある活動だと感じています。この活動によって、今後もシニアと若い世代が協力し、住みよい街づくりにつながることができればと考えています。

### ■開催概要

開催場所…かがやき亭

アクセス…JR西荻窪駅から徒歩7分又はバスで西荻

窪北4丁目より徒歩2分

住所…東京都杉並区西荻北4丁目4-4

開催日…毎月第1土曜日15時～17時

参加費…1000円・お茶菓子付き（17時より交流会・

別途500円／お酒あり）

プログラム…コンサート、合唱、生カラオケ、お役立

ち情報等の紹介、健康体操など

HP : <http://suginami-salon.com>





## 〈個人会員親睦会〉

# 「はつらつふれあいの集い」

7月8日、例年どおり「はつらつふれあいの集い」(個人会員親睦会)が日暮里の「ホテル・ラングウッド」にて150名弱参加して開催されました。この催しは主に関東地区在住の個人会員を対象に、協会の基本理念「自立と支え合い」をモットーに、会員相互の交流、親睦を目的とする協会の主要行事の一つ。従来は「チャリティ・コンサート」と同時期の11月に行なわれていたが、社員総会が5月ということで、その報告を兼ね開催日時を7月にしたもの。



理事長挨拶

会場入口には、例年と同じように、協会の多種多様なイベントのパネルが展示され、入場者の皆様には「イベント」のあらましを御納得頂けたのではと思います。

定刻、森副会長の開会の辞につづき榎本理事長の社員総会報告を兼ねた開会の挨拶。引き続き、桂歌春師匠の落語の一席。師匠の令嬢らくドル田代沙織さんに前座をつとめて頂き、親子の競演に会場は笑いの渦に包まれました。

このあと、食事とアトラクションの時間に。これより司会進行は山鹿副会長に。食事の前に、松多理事の発声で一同乾盃。テーブルにあらんだ中華料理に舌鼓を打ちながら久闊を叙し、アトラクションを楽しむ。トップバッターは仲町浩二氏が歌う演歌「孫が来る」。61歳で歌手デビューとは我等シニア世代の希望の星か。新入会員紹介。例年どおり宮崎米

パーティ用のビール提供  
アサヒビール株式会社  
景品の提供

神楽酒造株式会社／霧島酒造株式会社／坂元醸造株式会社／株式会社小学館／損害保険ジャパン日本興亜株式会社／宝ホールディングス株式会社／丸大食品株式会社／株式会社ミツウロコグループホールディングス／宮崎県東京事務所／株式会社グリーンホスピタリティマネジメント

の贈呈。新らしくご加入の皆様、今後とも協会をよろしく。続いて登場の中之島流大正琴「中琴多美とトライアングル」の皆様による演奏に会場は大いに盛り上る。大正琴はクラシカルな響きかと思いきや意外とポップ調なものにはビックリ。来場者の年齢構成を考えた選曲に会場は大満足。

大正琴の余韻が残る会場に、皆様お待ち兼ねのくじびきに。一番人気の宮崎牛のサーロインをはじめ日本酒、焼酎、南高梅、天然水、リング黒酢、カレーセット、美術館入場券、



松多理事乾盃

書籍等々のバラエティに富んだ景品、大多数の皆様には御満足を頂いて帰路につかれたのでは。素敵な景品を御提供頂いた企業様に対し、紙面を借りまして、厚く御礼申し上げます。今回は、新趣向として、御来場の皆様全員に「スクラッチくじ」を引いて頂きました。残念乍ら億万長者は出なかつたようですが、「宝くじ」の楽しみを味わって頂けたのではと存じます。

今回も例年どおり、会場の一画で協会が社会貢献活動のひとつとして取組

んでいる「きたざわサロン」の女性スタッフ手作り小物などと、協会が支援している鎌倉にあるダウン症児訓練施設（虹の子会）の子供たちによる作品の夫々の展示即売会が設けられ、御来場の皆さまの御理解を頂き、両コーナーとも完売することができました。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。売上金は夫々の目的に充てさせて頂きます。



仲町浩二様



桂 歌春師匠

最後に、会場の皆様全員で「花は咲く」と協会の歌（ふるさとの替え歌）を大合唱し、またの再会を期待しお開きとなりました。今回は例年と違い立食形式を改め、テーブル席となりましたが、会員相互の移動があまり見られなかつたのは残念でした。



らくドル 田代沙織さん



新入会員紹介



会員合唱の図



大正琴（中琴多美とトライアングルの皆様）

# マチユリテイ談話室

## 私の旅人生

泉 直樹



海のない栃木県で生まれた私は、子供の頃、夏休みに家族に連れられ茨城県の海に行くことを楽しみにしていました。太平洋の海原を見ながら、水平線の向こうにある大地の事を想像したりして夢を膨らませたものです。これが私を旅好きにさせた始まりかもしれません。

大学時代、当時「カニ族」といって横幅の長いリュックサックを背負って長期の鉄道の旅をすることが流行っていました。アルバイトで貯めた資金は殆ど旅に使いました。下宿の隣人の九州の実家を訪ね、その足で九州を一周。翌年は友達と北海道を一周しました。宿泊は一泊500円程度のユースホステルを利用、宿泊先で知り合った旅の仲間ができた

のも楽しい思い出です。

私は現役時代、金融機関勤務でしたが、もともと就職の第一志望は旅行会社でした。大学3年の時、友人達に刺激され、たまたま会社訪問した職場が我が勤務先で、ここに就職を決めた理由も（今だから言えますが）転勤により各地を探訪できるという極めて安易なものでした。御蔭様で現役時代は関西に7年半、東北に7年間勤務することができ、その間毎週末は各地の名所旧跡を探訪して歩き回りました。

特に思い出深いのが西国三十三所霊場巡り。ふと京都のある寺を拝観したときに、好奇心から朱印帳と掛け軸を買い、京都周辺の寺から巡礼を始めたのですが、霊場の中には車が入れず何キロも歩いたり、階段で数百段という所もあり、子供達からはいつも嫌がられたものです。西は姫路、南は南紀、東は岐阜と約3年かけて家族全員で全ての霊場を周りまわした。表装してもらった掛け軸は我が家の家宝となり、正月には掛け軸に新年の合掌をす

るのが我が家の恒例行事になっています。この齢まで大過なく過ごせているのもこの時に苦勞して周ったお蔭かもしれないと思っています。

旅の楽しみは日常的な生活から解放され、未知の世界を体験できることにありますが、各地の自然や文化を楽しむのみならず、現地の生活に直接触れてみてその土地の風土や歴史、食文化等を知ることがとても有意義です。定年後は毎年妻と海外旅行に出かけていますが、海外の旅にも同じことが言えます。昨年は学生の頃から憧れていたスペインを訪れ、アルハンブラ宮殿やトレドの町並みなどその歴史遺産に圧倒され、深く心に焼き付けることができました。これからは時間と体力のある限り、世界各地を旅して新たな発見に遭遇できるように願っています。

## 四十八年目の告白

広島支部 市村 章



美しくありたい、人間誰しも、憧れるものでもあり、願望でもある。私も、昭

和42年から、美しくあろうと、およそ半世紀近くも、お世話になりました。女性に、モテたい気もあつたでしょう。今では、ありがたいという、感謝の気持ちです。美と、青春をもらいました。人生80年とすると、60%も、長きにわたり、お世話になりました。それはカツラなんです。48年近くも、お世話になり、皆さんを騙し通しました。毎日髪型が同じですから、うすうすバレていたのかも知れません。しかし、考えてみると、誰からも、カツラをつけているのかと、尋ねられたことはありませんでした。

実を言うと、私自身お世話になるのに、疲れたのが本音です。孫達も騙し通しました。風呂を、せがまれることが、ありましたが、頑なに断り続けました。その孫に、ハゲを披露するのが大変でした。鳩が、豆鉄砲をくつたように、目を白黒させ、じじの顔を、しみじみながめていました。ひとつの関門クリアです。

イソップ物語の、太陽と風の話ではありませんが、暑さと風には、悩まされました。現役時代、ヘルメットを被る機会が多くあり、髪型は、乱れ、頭は蒸され、汗ぶるぶるです。下手なゴルフをやれば、地熱と太陽にやられ、

汗だくだくです。ゴルフ場の、土を持ち帰り、研究するどころではありません。ゲーム終了後、風呂に入るんですが、頭が、洗えない。一泊旅行も大変です。旅で、心が休まるべきですが、私には苦痛でした。こっそり深夜風呂へ。又睡眠中、カツラが移動したり、取れたら、大変です。風にも、悩みました。両面テープで、止めるだけです。突風で、飛んで行ったら大変です。頭を、押えながら、歩くこともあります。ましてや、ジェットコースター・回転ブランコなど乗れません。四国の八十八ヶ所参りで、同行者は、知らない人ばかりでしたので、カツラをとり、帽子でおしとおすつもりが、神の前ではダメで、神様にハゲを披露しました。

ハゲは、男性だけのことです。男性ホルモンの、アンドロゲンが、あるかないかで、老化や病気や肉体の衰えではない。できる男が、ハゲるんです。ハゲを、自慢するわけではありませんが、進化した男の証しです。カツラは、私の青春でした。又楽しい人生をもらいました。

カツラよ、グッドバイ！ サンキュウ！  
秘密のイッチャンでした。役目完了！

## ふるさと・家族

岡 季子



都下（日野市）に住むようになって、45年が過ぎても、生まれ育った《ふるさと宮崎》が何かと想われます。

両親（家族）・友達・景色・・・

南九州の風土も性格形成に関係があるような気がします。

私は、3人姉妹の末っ子に生まれました。

長姉は頼りになるしつかり者、次姉は自立心旺盛、私は依頼心が強く楽天的、そんな姉妹です。

終戦直後の生活は、食べ物にも不自由し、苦しいものでしたが、父母は子供を育てるのに懸命になってくれました。

先日、高校の同窓会出席のために帰省しましたが、ちょうど宮崎神宮のお祭りでした。

子供の頃は学校はお休みで、女の子は晴れ着を着せてもらって、祭列を観に行ったものでした。真っ赤な顔の獅子に кандでもらうと、元気に育つとかで、怖いのを我慢して泣きな

がらパクパクされました。

父母は他界したので、ここ何年かは年に一度くらいしか帰省していませんでした。抱かれて泣いている子供をみると、懐かしい気持ちでいっぱいでした。人出は以前に比べて多いとは言えませんが、お祭りは子供にいい思い出として残るものだと思います。

大通りの商店はシャツターが下りている店もありますが、観光県、スポーツランドをめざしている宮崎は、いい所がいっぱいあって懐かしくて、あったかいふるさとです。ふるさととのつながりを断たないように、同窓会・宮崎市人会・県人会には出来るだけ参加して、ふるさとの今を知るようにしています。

## デジタルよもやま話

広島支部 外前田 恵



マイナンバー制度が平成27年10月にスタートした。

国民一人一人に背

番号を付けて国が国民を管理しようとするこ  
とらしい。

この様なことは明治4年、太政官布告の戸

籍法によって全国民に苗字、名前をつけることになって以来の大改革ではないか。

かく言う私の苗字もその時に付けられたものではないかと思う。

農民だったご先祖は武士のステータスでもあった苗字を付けることになりずいぶん戸惑ったことだろう。

ご先祖は特に学があるわけでもないのに無  
い知恵を絞ったことだろう。

これは推測だが私の郷里の近くの集落に前田と言う地区がある。ご先祖はこの近くに住んでいたので集落の外にあるから外前田と苗字を作ったのではないかと思う。

この様な国と国民の基本に関わる大改革は143年ぶりと言うことになる。

それにしても国、行政機関もマイナンバー制度の意味するところを国民に周知徹底しているとは到底感じられないし、国民も無関心とは言い過ぎだがのんびりしているようにも感じる。

一方、最近のスマホ、タブレット等の広がり方は目を見張るものがあり、シニアには、とても追いついて行けない。

スマホも嫌い、パソコンは小難しい。

今まではこれでも済んでいたが、これから

もこれで良いのだろうかと感じずる。

今回のマイナンバー制度の導入ではマイナンバーサイトなるものがあり、自分の個人情報にどの行政がアクセスしたか、また、行政が持っている自分の特定個人情報について確認する機能などがある。

これを国民がパソコンなどで自分の情報を見ること、チェックすることが出来る。

こうなるとパソコンやスマホが嫌いでは自分の権利は守れなくなる。

一方、最近「モノのインターネット化」と言うことで家電をインターネットに接続して使う試みがなされている。

例えばエアコンをスマホで外出先からリモコンする、またこのエアコンには人感センサーが付いているのでこれを利用してスマホで遠方からでも「安否確認」「見守り」が出来るようになるものもある。

この様にデジタル社会はシニアに厳しい面もあるが積極的に取り込むことによって自分の権利を守り、シニアライフをより豊かにする可能性があるのではないかと思う。

## 「宿題」

吉田 亜紀



本当にそうなのだ。

人生は何が起こるか  
かわからない。諸先輩方  
を前に偉そうに事を言うようだが、

5年前、スポーツ万能で病気とは無縁だった夫がスキルス性胃癌だと診断された時はまさに晴天の霹靂だった。それでも夫は取り乱すことなく、冷静に現実を受け入れ治療に進んだ。胃を全摘出する大手術も乗り越え、医師も驚く程の回復振りですぐにゴルフを再開し、体力回復に励み3年間は通院しながらも日常生活は支障無く過ごしてきた。しかし3年半が過ぎた頃、再発がわかり昨年の夏に48歳の若さで天に召されてしまった。

同い年で大学時代から付き合っていた私にとって、夫がいなくなってしまうことなど想像もできないことで、未だに悪い夢ではないかと思うが、現実には夫がいなくて大きく変わってしまった。

夫は勤めていた銀行を辞め、家業の運送業

を継いでいたので夫がいなくなれば会社の代表がいなくなってしまう。25歳で結婚してからずっと専業主婦だった私はいきなり代表取締役になってしまった。

夫の祖父の代からは80年、母の代からは50年続く運送業は勿論だが、夫の想いの詰まった事業がもう一つある。まさか自分が病気になるなど夢にも思わなかった頃から、夫は常々流しのタクシーの荒っぽさを嘆いていた。お身体の調子の悪い方が病院へ行く時や、妊婦さん、赤ちゃんがお出かけする時などは、もっと安全で安心して乗れるタクシーが必要だと「こころタクシー」を始めたのは7年前だった。

試行錯誤しながら何とか軌道に乗るように頑張っていただけに、この事業もなんとか伸ばしていかなければならない。まったく夫は私に沢山の宿題を残して逝ってしまった。

いつかこの宿題をやりとげることができたら、夫は私にいったいどんなご褒美をくれるのか、何かはわからないがきっとくれると信じて日々奮闘中である。

## 随想

人は、いろいろな時に曲がり角を感じることもあるものである。ターニングポイントとでも言おうか。それは後で振り返ってみてはじめて気づいたり、感慨を深くすることも多い。

日記！ 私は小学5年生のときに、父に連れられて真夜中の初詣に出かけた。凍てつくような夜気に身を震わせながら見上げた木に、びわの花がうすぼんやりと浮かんでいた。そのときなぜか私はこの空気を日記にとどめておこうと思いついた。真新しい学習帳につけ始めた日記は、社会人になってから3年連続当用日記へと変わり、以来今に続いている。

連続当用日記ならではの効用は、その日の出来事を綴るとき、必ず前年の同じ日の記述に巡りあえることである。そして、一年前、二年前のその日が私にとって人生の曲がり角であったのか、ふと気づかされることもしばしばなのである。

(黒木重昭)

# ひとこと「私の一冊」

●矢内原忠雄著

『余の尊敬する人物』（岩波新書）

広島支部 飯田 暁

この書は、時の好戦政権を批判したため、昭和15年に東大教授の地位を奪われた著者が、4名の人物、エレミヤ、日蓮、リンカーン、新渡戸稲造の生涯を語りながら、どうすることが、国民にとっての正しい政治であり、教育であるかを、熱く語った、「どこをについても血が出るような」生きた書で、高校生時代に私の生涯の方向を決めた書です。これが書かれた時代とよく似てきた今、もう一度読み直そうと思っています。

●聖書について

広島支部 伊藤正雄

私が本格的に聖書に親しんだのは17歳の時でした。結核という死の病に伏していたとき、新薬と共に新約聖書が送り届けられました。

新薬のおかげで死に打ち勝ち18歳で洗礼を受け、爾来クリスチャン生活を半世紀以上続けています。

私の平和活動の原点は、「Never

Forget から Never Again」と言

う思いですが、これは、聖書の中の

「汝の敵を愛せよ」の実践だと言う

思いから来ています。

●『永遠の0』 広島支部 小川千幸

0とは太平洋戦争中、日本が世界に誇る名機として名を轟かせた海軍零式戦闘機、即ち「零戦」でこのゼロの天才パイロットにまつわる話。敵をして日本の侍だと言わしめた凄腕の宮部教官は、一方では臆病者と陰口された。しかし彼は全能力を駆使し空中戦に生き残ることを決意していたからで、卑怯者ではない。生に拘ったのは家族の元に必ず帰る、君の元に帰ると決意していたから。

終戦間際に彼は零戦と共に死んだ。

だが、彼は愛する妻子のところに帰って来た、命を助けた若い部下を通して私の魂に迫る。

26歳で特攻で亡くなった宮部の孫が、祖父の生涯を調べていく内に真相が見え始める。作者百田尚樹氏は戦争の実情、作戦の失敗、無責任さを鋭く描いている。

●一平二太郎

小野利明

「一平二太郎」を超える歴史・時

代小説作家にはまだお目にかかれないうという話に私も同感である。藤沢周平と司馬遼太郎と池波正太郎のこ

とだそう。現役時代の私は通勤電車の中はいつも遼太郎だったが、独特の史観に飽きて、やがて正太郎に移っていった。文庫本で殆んど読み尽くしてしまつと、今度は周平の世界に浸るようになった。数ある中で私のおすすりは「風の果て」。いまは「剣客商売」を読んで寛いでいる。

●定年後に印象に残った本『海賊と呼ばれた男』

木村一雄

異端の経営者「出光佐三」をモデルにして終戦後60歳でほとんどの財産を失った男の生きざまが描かれている。ゼロからの出発は多難を極めるがあきらめず、失敗を恐れずに困難に立ち向かう姿勢が貫かれている。特に、支援者もいたが業界、行政などの関係者との熾烈な競争と軋轢を乗り越えて向かう有様が勇氣と元気を与えてくれた。年齢を問わず挑戦する気持ちを持ち続けることの大切さを思い起こさせてくれた。

●山本周五郎『小説日本婦道記』

黒木重昭

この作品は昭和18年、雑誌「婦人

倶楽部」の連載。その年の直木賞に推されながら、山本周五郎は受賞を固辞したという短編集である。

17の作品が収められ、そのいずれもが日本女性のたおやかでかつ芯の強さをテーマとし、読む人の涙を誘う佳作集といえよう。

たとえば「松の花」という作品では一千石の奥方の奥方が亡くなった後、婢などが実母を慕うように泣き悲しむのを不審に思った夫が、その妻の日頃着ていた衣服のつましやかであったこと、亡骸の手の荒れていることに初めて気づき、武家を守る奥の心がけにあらためて愛情と感謝を覚える、という話になっている。現代の女性にこそ読んでもらいたい。

●二冊の「ヘッセ詩集」

広島支部 黒坂貞子

夢多き青春時代、「世界の詩集」を読みたくなり、全集十二巻揃えたいと思いましたが、お金がないので、一巻ずつ買って揃えることにしました。最初に「ヘッセ詩集」を買いました。詩集を読んでいる時に「その詩集なら全巻持っているよ」と、声を掛けてくれた人がいました。私は、全巻を借りることができ、ワクワク

しながら読みました。その、声を掛けてくれた人が、主人です。我が家の本棚には今も「ヘッセ詩集」が、二冊並んでいます。

●『鈍感力』 関根貞夫

若い時から、歴史小説を好んで読んでいました。司馬遼太郎・藤沢周平・山本周五郎など、時代背景や人間関係が面白く、特に池波正太郎作品は好きでした。近年二回入院の折、渡辺淳一の『鈍感力』を再読し、縦社会から横社会の人間関係の中で、自分はどちらに属するのか、時には再読し試行錯誤する自分がいます。人間卒業するまで、鈍感力を理解したいと考えています。

●『ベスト・ゴルフ』トミー・アーマー

田林巖樹

著者はエジンバラ大学在学中第一次大戦に従軍したが、イペリットガスのため失明、後に右眼の視力を回復した。終戦後アメリカにわたり、全米オーブン、全英オーブンに優勝した。この本の中で、ベストゴルフをする為の14か条が示される。要は「頭を動かすな」に尽きる。ゴルフ・ライターのライス氏は「この本はゴルフをしない人にとっても馳

走であり、ゴルファーにとっては黄金に比すべきもの」と賛辞を寄せている。

●『風と共に去りぬ』 築山洋子

高校一年の夏休みに世界文学全集を読破し、一番印象に残り生きる指針ともなったのが、この一冊です。南北戦争という過酷な時代、農場の女主人として逞しく生き抜いた主人公スカレット。どんな苦しみも悲しみも風と共に去り、新しい明日と言う希望がやって来る！ そのスローガンを胸に抱き、高卒で単身富山から東京に出て国際線客室乗務員、そして画家として生きて来ました。私の中に今もスカレットが居ます。

●『雨』 広島支部 長谷川充

高校生の時読んだサマセット・モームの短編です。南海の楽園のような島サモアで、布教に熱心な宣教師が、同じ宿に居合わせた娼婦、男

達を誘惑するいかげわしいこの女を改心させようと、懸命に神の教えを説きますが、長く重く降り続く雨のため、理性を失い、性的な衝動を覚醒させられ、逆に娼婦の誘惑に堕ち、自殺してしまいます。その遺体には、嘲笑う眼差しが注がれるだけで、人

間の性を教えられた一冊の本でした。

●『火花』 林稔

今年の芥川賞を、お笑い芸人の又吉直樹さんが受賞した本を興味本位で購読しました。性格の違う先輩と親しく付き合う中で紆余曲折を経て、話芸を磨き頑張って来た様を描いた作品だと思えます。いわゆる良くある話で、特別な事は感じませんでしたが、本の内容より一字一句、丁寧な表現され奥深い物があり、その感性は賞に値いすると感動しました。お笑いと文学の両面での活躍にこれからも期待します。

●現代俳句シリーズ 水原 春郎集

広島支部 牧 康司

私の学んで居ります事の一つに、俳句があります。丁度標記、春郎先生の句集を読んで居ました時、編集委員より《私の一冊》に関し執筆要請を受けました。

常々俳句に付いては情操感を大切に、高次なものを具現化して行く努力が必要と思つて居ります。

好きな句は次の京都の句でした。  
(流れゆく落花は先を争わず)

●『白川静 漢字の世界観』(松岡正剛著) 森 秀雄

漢字に関する白川静の著名な字書「字統、字訓、字通」の三部作を初めとした膨大な著書への入門書である。古代中国(紀元前4500年頃)の甲骨文、金文から秦の始皇帝によって統一された篆文による中国の文字の歴史、漢字の変遷、詩、経文の日本への渡来とその影響、仮名文字の発明、日本語の発展他「巨知」白川静の文字学思想と世界観を紹介しており、篆刻を趣味とする者として極めて有意義な一冊であった。

●『信長の棺』 吉田昌子

茶道の末席を汚す私は、信長の時代ほど政事に茶道が深くかわつた時代はないと思います。茶会の会議の中には人間関係の微妙な出会いと別れがあります。それがこの本の参考になつて居るのでと考えると始めた次第です。信長公記を書いた太田牛一が信長の半生期を書いた如くの状態で作者加藤廣と太田が一体となり、信長の死の謎にせまっていく物語です。フィクションとノンフィクションを取りまぜて進む過程が興味深いものでした。



# 「週刊読書人」の

編集長が  
すすめる本

週刊読書人編集長 明石健五

「週刊読書人」は2018年に創刊60周年を迎える、出版界では歴史ある書評の専門紙です。日本では1年間に8万点を超える新刊書籍が発行されていますが、その中から、ぜひこれに注目して読んでもらいたいと考える本を選び、毎週10〜15点ほどを公正中立な立場で紹介してきました。

金曜日に発売し、年間50回の刊行です。700点近くの本を紹介していることになるでしょうか。全国の著名な書店では店頭販売しており、各地のほとんどの図書館では新聞のコーナーに置かれていますから、目にされた方も多いかと思えます。今回、機会をいただきましたので会員の方にふさわしい本を3テーマから選んでみました。

なお、「週刊読書人」を定期購読したいご希望の会員様には、特別に割引させていただきます。ご希望があれば見本1部を無料で贈呈いたします。

## ◎テーマⅡ青春

### 山本義隆『私の1960年代』

本誌の読者の中には、1960年代に青春時代を送った方も多いのではないだろうか。戦後日本の「青春時代」とも重なる、最も熱い激動の10年間だった。まさにその時代を生き、東大闘争の象徴的人物と称される、元東大全共闘代表・山本義隆氏が、自らの体験を綴った一冊。1960年に大学に入学し、物理の勉強が何よりも好きだった一学徒が、なぜ学生運動の道に踏み込むようになったのか。山本氏は、これまで運動体験について一切語ることはなかった。その意味でも興味深い一冊である。もともと、東大闘争の頂点であった安田講堂攻防戦の時は、著者は講堂内にいなかったこともあり、そこも含めて語られていないことも多々ある。しかし、これを機に、多くの全共闘世代の人たちが、あの時代のことを語ってくれることに期待したい。3年後の50周年に向けて、後世代のためにも、ひとつの歴史を書き残しておくことは、重要なことではないだろうか。

## ◎テーマⅢ老いの学び直し

### 藤沢周平『三屋清左衛門残日録』

藤沢周平の小説『三屋清左衛門残日

録』をはじめ読んでしたのは、今から20年前、30歳を少し過ぎてのことだった。いい小説だとは思ったが、それほど主人公に感情移入することはできなかった。50歳を過ぎて、再びこの『残日録』に向かうと、また違った思いにとらわれた。清左衛門が隠居を考えるようになったのが49歳、そして実際に52歳で家督を息子に譲る。時代は違うが、まさに今の自分と同世代であり、主人公の思いが少しはわかるようになった。宮仕えから解放され開放感があるかと思えば、その逆、世間から隔絶されたという悲哀、やるせなさ……。清左衛門は一念発起し、道場に通い、塾で経書を学ぶことにする。自分の息子ほどの年齢の塾長と接し、新しい世界が開けていく気持ちになる。近年、大学のオープンセミナーやカルチャースクールでは、70歳を越える方たちの姿が目立つようになった。何かを学ぶに「遅い」ということはない。藤沢周平を再読し、改めて思うことだった。

## ◎テーマⅣ死生観

### 立花隆『死ぬとわくわく』

「死ぬ」というのは夢の世界に入っていくのに近い体験だから、いい夢を見ようという気持ちで人間は死んでいくことができるんじゃないか——そう

立花隆氏は語る。脳死、臨死体験、人体再生等々、これまで人間の生命と死をテーマにして多くの著作を著してきた立花氏も、今年75歳を迎えた2000年には、長年連れ添った前妻を、末期がんで亡くしている。その2年後、自らのS字結腸に大腸ポリープが発見され切除した。この際は、自分を被写体として、がんかどうかの病理検診、診断、告知までを克明に追うドキュメンタリー番組の製作をNHKに提案した。今年3月、NHKのBS1では『シリーズ 死ぬとき心はどうなるのか 立花隆「臨死体験」を追う』が全3回放映された。「終活」という言葉も最近よく耳にするようになった。50年におよぶ作家生活を通して死の問題に向き合ってきた「知の巨人」が到達した、その死生観とはいかなるものか。誰もが考えなければならぬ問題に真正面から挑んだ一冊。

◆お申し込みの場合は

16210805 新宿区矢来町109

(株)読書人

電話03-32660015791

※定価2800円×5週14000円を13000円とし、送料をサービスいたします。

# イベントだより

## 囲碁会

### ■第50回記念 囲碁大会

協会の発足直後に誕生した囲碁大会も50回目を迎え、10月30日（金）に市ヶ谷の日本棋院で28名の参加で開催されました。

増淵委員長の対局ルールの説明後、記念大会の開会が宣言され、対局が開始されました。

張り詰めた雰囲気の中で、熱戦が繰り広げられ、左記の優績者が決定いたしました。

Aクラス 優勝 川田剛 七段  
二位 笹田俊輔 六段  
Bクラス 優勝 森英彦 三段  
二位 広瀬一郎 三段  
各クラス優勝者のコメントです。

Aクラス 川田剛 七段

サラリーマンを退職後は趣味である囲碁とインターネットで楽しんでいます。過日囲碁仲間の岸上さんから大会へ誘われて、初めて参加しました。危い碁もありましたが、

幸い記念大会に優勝できまして大変嬉しく思っております。

家庭的で雰囲気も良く、支障のないかぎり今後も参加し、囲碁を楽しみたいと思っております。

Bクラス 森英彦 三段

私は府中にある「ふれんど」という碁会所の会員ですが、仲間の井上さんから誘いを受け、記念大会に参加したところ全勝で優勝することができ、次回からは四段で打つことになりました。81才で初めて優勝と名の付く勝利で嬉しく思っています。戴いた祝儀袋は開封せず、近々会える孫娘にプレゼントすることを楽しみにしています。50回記念大会をはずみに更に賑やかな会に発展されるよう祈念いたします。

(上村洋一)

51回は5月27日を予定

## 絵手紙&小品絵画同好会

11月10日で第三回を迎えた新しい同好会です。



「絵心がなくて」と心配ながらも新規参加の会員も、外部メンバーと楽しく作品を仕上げます。

築山講師による最後の仕上げで素晴らしい作品を持ち帰ることができるのが魅力です。

- ・ 奇数月・第二火曜日14時～16時
  - ・ 協会会議室にて
  - ・ 参加費…¥2000
  - ・ 洗える服装で、手ぶらでお越しください。
  - ・ お申込み…築山洋子（090-7410-3331）／安達の子（090-9851-4134）
- (安達の子)

## 江戸東京歴史散歩の会

### ■第76回 早稲田・高田馬場散策

(10月20日 参加者32名)

今回は都の西北に位置する早稲田・高田馬場界隈を散策した。



かつてこの界隈は、徳川尾張藩の下屋敷で45万平方メートルに達する広大な地域であった。  
まずは東西線「早稲田駅」に集合。地上出口から数十歩ほど歩いた処に漱石誕生の記念碑があり、漱石の父が命名したと言われる「夏目坂」をほんの少し歩いてみた。

次に向かったのが「穴八幡神社」この神社は江戸の総鎮護で金銀融通の御守「一陽來復」を冬至から節分の期間に授かる事が出来るとあって今でも大変人気があるとのこと。

次に足に向けたのが戸山公園。この敷地の中に二代目尾張藩主徳川光友が回遊式庭園「戸山山荘」として整備し箱根山（静岡県）に見立てた築山の玉円峰（現在の箱根山）、

東海道の小田原宿を模した建物等をしつらえる等、水戸藩の後楽園と並ぶ名園を造った。箱根山は新宿区で一番高いが44メートルしかない。明治維新後は陸軍戸山学校となり、戦後は公園、団地、学校等に姿を変えた。

今回は歩くには最高の天候となり、石段や坂道に加え箱根山まで登山？をしたので少々汗ばんだ。

最後に諏訪神社に詣でる前に当神社の別当寺である玄国寺に立寄る。この寺に着くと全員に冷たい茶の接待があり、タイミンクの良い一服となった。その後、ご住職から寺の由来等を聞いてみると、境内の中に明治の元勲岩倉具視の旧邸の一部が移築されているのを聞き、見られず残念。

最後は弘仁年間（810～824年）の創建と伝えられ眼病、諸病に靈験有とする「諏訪神社」に参詣した。

かつては付近一帯が当神社に因み「すわちよう」と呼ばれていたが、住居表示による町名変更により地名としては消滅した。現在では、諏訪通りや諏訪町交差点などに名を残している。

(内田 厚)

## ■第77回 赤穂浪士の史跡を訪ねて

(11月11日 参加者27名)

今回のコースは、泉岳寺を中心とした赤穂浪士の史跡を中心に散策しました。赤穂事件は、赤穂浪士47名が元禄15年12月14日、江戸本所の吉良邸に討ち入り、吉良上野介義央の首を手向けるため、討ち入り後本所から泉岳寺まで約3時間で歩いたようです。その後大石内蔵助良雄を含め47名が、切腹させられた事件です。

最初に訪れた高輪大木戸跡は、江戸を守るため東海道口に設けられた大木戸です。その他甲州道の四谷大木戸、中山道の板橋大木戸があったそうです。その後伊皿子坂を上り、魚籃坂途中の魚籃寺を訪ね、本尊魚籃觀世音（魚籠を持った觀音様）を

参拝しました。

次に、肥後細川家下屋敷跡のシイの木、赤穂浪士大石良雄外十六人中烈の跡（切腹した場所）を見学し、路地を通り泉岳寺山門へ行き、本堂の参拝後首洗いの井戸、浅野内匠頭の墓所、大石内蔵助ら赤穂浪士47名の墓所にお参りしました。泉岳寺は、觀光地のように、他の参拝グループや外国人などの觀光客が多く、墓所には線香の煙が絶えないとのことでした。12月14日の「義士祭」には、もつと境内が混雑するそうです。

その後日本初の本イギリス大使館のあった東禅寺を訪ね品川駅で解散しました。今回の散策は、距離的には短かったが坂が多かったので疲れました。興味があればぜひ「義士祭」も行かれてはいかがでしょうか。

(野ヶ山信和)

## 園芸クラブ

### ■六義園及び旧古河庭園 紅葉鑑賞

会 (11月24日 参加者27名)

秋の変わり易い天候が続く中で、当日は幸いに穏やかな小春日和に恵まれました。

JR山手線駒込駅東口に集合、割烹「岩むら」で昼食の後、徒歩10分の「旧古河庭園」に移動して園内を散策し日本庭園の心字池周辺のハゼやモミジなどの紅葉と洋風庭園の遅咲きのバラを40分ほど見て廻りました。ハゼは見事に色付いていました。次いで、本郷通りを20分ほど歩いて「六義園」へ移動し、この時期だけ開門している染井門から入園、庭園ガイドの案内で、柳沢吉保が7年の歳月を費やして完成させた回遊式築山泉水庭園の風情と紅葉とを1時間半ほど楽しみました。「六義園」のモミジの特徴はイロハモミジと呼ばれる日本で最もよく見られ、美しい紅色に色付くことで知られるモミジの代表的品種450株が高さ10メートルを超す古木の樹林を形作っていることです。イロハモミジという和名は葉の深い裂片五～九裂を「いろはにはへ」と数えたことに由来すると言われています。

今年11月に入っても気温の高い日が続いたためモミジの色付きが例年に比べ遅れている状況ではありましたが、和歌に造詣の深かった柳沢吉保が万葉集や古今和歌集にある紀



赤穂浪士の史跡見学

州和歌の浦周辺の景勝を映し出したと言われる庭園の所要所でガイドの方から和歌の解説や樹木の説明などを聞き新たな知識を蓄えながら、由緒ある庭園で癒しの時間を過ごした次第でした。

(杉山 功)

## 鎌倉探訪

### ■116回 鎌倉探訪

(10月13日 参加者23名)

今回のテーマは「材木座界隈の寺院を拝観し『お十夜』の光明寺を訊ねる」

**延命寺**は北条時頼(五代執権)夫人の創建になる浄土宗寺院。本尊阿弥陀如来像の左に高名な身代わり地藏像が祀られている。双六盤の上に朱色の衣を着て立つお地藏様に伝説がある。時頼夫妻が双六遊びに興じて、負けた方が裸になる賭けをした。負けそうになった夫人がお地藏様を念じたところ、裸の地藏菩薩が双六盤の上に現れ、身代わりとなって夫人を救った。夫人は感謝し地藏像を作らせ、信仰心を一層強くした。従って此の像は女性の裸像である。運慶作と伝わるが、鎌倉時代に裸婦

像とは吃驚ですね。

**来迎寺**は源頼朝が創建し、後の時代に時宗寺院となった。石橋山の合戦に駆付けられたが間に合わず衣笠城で討死した三浦大介義明。その菩提を弔う為に建てられた。寺の裏手には三浦一族の墓百余基も並んでいる。義明公は当時89歳だった。「一旗揚げるのに遅き事はないぞ」と、公の声が五輪塔から聞こえそうだ。

**光明寺**は北条経時(四代執権)の開いた浄土宗の大寺院である。後花園天皇直筆の扁額が掛かる山門は鎌倉最大で、楼上から海を目の前に、遙か富士山や箱根の山々が望める。お十夜法要(10月12日~15日)の為、参道や境内に露店が並び、信者を中心に参拝者で一杯だ。可愛らしい稚



光明寺“お十夜” 光明寺本堂前

児行列が通ると、山門からは蓮の花弁を模った色取り取りの紙が撒かれ(散華) 絵巻物のような光景だ。お十夜法要は後土御門天皇の勅許で始まった500年を超える法要の行事で、全国の浄土宗寺院にも拡がっていった。当寺には国宝当麻曼荼羅縁起絵巻を寺に寄進した大名内藤家の荘厳な墓地がある。この墓地も含め、鎌倉の寺院に付き物の暗さが此所には無い。目の前の海のせいなのか、明るいい寺である。

光明寺から歩くこと僅かで砂浜へ出る。砂浜の先が**和賀江嶋**だ。日本最古の築港遺跡で国の史跡である。北条泰時(三代執権)の時代に造られた。此の日は生憎海面下だったが、干潮時には丸石を積み上げた遺跡が



和賀江嶋を陸より見る

姿を見せ、近辺からは青磁の破片等も出るそう。

爽やかな秋の鎌倉で、時空を超えた信心深い老若男女に出会えた、素晴らしい一日でした。(加藤文男)

### ■117回 鎌倉探訪

(11月5日 参加者31名)

今回のテーマは「運慶仏を浄楽寺で特別拝観し三浦三十三観音寺院を訊ねる」

仏師運慶作の仏像は三十余り有ると言われているが、確実なものは十数体とされている。今回はその内の五体に会える。弥が上にも期待が高まる。逗子駅からバスで40分、横須賀市芦名の**浄楽寺**に到着。当時は三浦一族で鎌倉幕府の重鎮の和田義盛が開いた浄土宗寺院。普段は拝観出来ず、悪天候時には宝蔵の扉を開けないのだが、この日は好天。宝蔵に入り間近に拝観出来た。中央に阿弥陀三尊像。厚い胸と広い肩の阿弥陀如来坐像は波打つ衣文も美しい。両脇の観音像と勢至像は体を捻りながらも堂々たる立ち姿。さらにその両脇に不動明王と毘沙門天の両立像。厳しい表情が鎌倉武士を思わせる運慶の傑作だ。孰れも運慶作と判明し

たのが昭和34年で、仏像胎内から出た銘札で証明されたものである。当寺には郵便の父前島密の墓が有り、奇しくも前日（11月4日）は日本郵政の株式上場日とあって、何とも不思議なお墓参りとなりました。

寺から山を下るように海へと向かう途中に、**芦名城址**、**十二所神社**、**淡島神社**が点在する。三浦一族の芦名氏に関わる旧跡群だ。なだらかな丘陵地帯の畑や民家脇の小道を辿ると、青空に映える鈴なりの柿、若苗のキャベツに舞う秋蝶、童謡に出てきそうな長閑な光景だ。目の前に海が見えると**天神島**に着く。昼食を取り島を一周。ここは浜木綿の北限地と言われている。江の島や遙かに富士山も望めた。

**福本寺**も**専福寺**も海へ向かって建っている寺院で、浄土宗、浄土真宗の違いはあるが、恰も漁師の活動を見守っているかのような造りである。専福寺には三浦三十三観音の二十八番礼所**観音堂**が付設されている。40センチメートル程の小柄な十一面観音が安座しているが、運慶仏とは違った安らぎを感じさせる。その昔、三浦半島で大飢饉があり、

三十三霊場に祈願すると危難を救われたという歴史により、800年前から観音様の札所巡りが行われていたそうだ。

仏像を拝観した後の安らぎなのか、長閑な風光の故か、土地のご住職の穏やかなお話し振りからか、各々相俟つての事だろうか、心地良い疲れをもつて秋の一日を終えることが出来ました。

（加藤文男）

## カラオケ同好会Ⅱ

現在、協会には同好会は二十有余ありますが、本カラオケ同好会は昨年10月に発足した誕生ホヤホヤの会です。もともと協会にはカラオケ同好会がありました。これとは別にカラオケ愛好者が偶数月に集まりカラオケを楽しんでいました。

ところが回を重ねる毎に参加者が増え、折角の美声を披露する機会が少なくなり、欲求不満を解消するため、既存のカラオケ同好会をカラオケ同好会Ⅰとし、人数調整のうえ、新たにカラオケ同好会Ⅱを立ち上げ毎月第三土曜日に開催しカラオケを充分楽しむことにしました。開催場



所はカラオケ同好会Ⅰと同じ銀座7丁目のクラブ「クレシエンド」です。時間は12時半から4時半の4時間、会費は一回につき3000円。入場時に唄いたい歌を5曲申し込めます。飲み物とオードブルが出ます。

皆さんで楽しく愉快に過ごせることをモットーに運営を心がけています。参加を希望される方は事務局までご連絡ください。

（西納政光）

## 木楽会

この会は木版画の勉強会で、毎月第二、第四金曜日の午後15時に日退協の

会議室に集まり、行っています。

メンバーはリタイアした60代から80代の木版画好きシニアです。現在の会員は10名です。現在、講師はおりませんが、新しい材料、技法等の情報交換や、各自の作品についての制作意図、技法等を発表し、これに対して意見を述べ合い、お互いのレベルの向上を図っております。メンバーのキャリアも50年から2年と幅が広く、経験の少ないメンバーにとってはベテラン全員が先生です。

年間の主な行事は、年に2回の外部研修（スケッチハイイク、美術館訪問等）、作品・暑中見舞い・年賀状の交換及び春に行っている作品展です。今年度の外部研修は、6月の町田の版画美術館訪問と横浜地区のスケッチハイイクの2回を予定しましたが、6月は町田美術館が改修のためが、6月は町田美術館が改修のため休館になり、中止しましたが、横浜のスケッチハイイクは11月13日に実施致しました。スケッチやハイイクの後には中華街で美味しいランチとお喋りを楽しみました。

今年度の作品展は4月に築地の茶の実倶楽部で開催しましたが、次回は来年6月に同じ会場での開催を予

定しております。この会場は築地市場に近いこともあって、非常に好評です。ぜひ、足をお運びください。

本会は以上のように会員の相互研修・研究を旨としており、授業料も徴収しない気楽な会です。リタイア後の趣味の一つとしてお勧めします。年賀状を木版画で作ってみようかなとお考えの方は教室の見学にお越しください。詳しくはホームページをご覧ください。  
(坂上慶司)

## サロンコンサート

### ■第40回 サロンコンサート

(7月24日 参加者53名)  
年があらたまり新年号のマチュリテイ誌に掲載することになりましたが、昨年7月の盛夏の中で行われまして「サロンコンサート」について記述致します。

当日は梅雨明け目前、気温35度以上の湿度も高い日となりました。

又、ライブ開始直前には会場の原宿は激しい雷雨に見舞われ開始時間を15分遅らせました。今回のこのコンサートには皆様のご協力により56名のご参加を頂いていたのですが激

しい雨のせいに来場を断念された方もおられたようで53名の方々のご参加を頂きました。

今回の出演は、従来「日退協」で主催しております「チャリティコンサート」で度々演出及び出演でお世話になっている赤塚太郎さんとメゾソプラノの望月友美さんをお願いしました。お二人は「ドイツ・カールスルーエ国立音楽大学」「同大学院」で共に学ばれた学友です。それだけお互いの息もピッタリの感でした。

お二人は国内及び海外で高い評価を受けておられ、数々の賞を受賞しています。第1部は「童謡・唱歌メドレー」で、第2部は「愛」をテーマにした世界の名曲メドレーで、赤塚さんの編曲・ピアノソロと望月さん



原宿・アコスタジオにて

の美しいメゾソプラノの歌唱力に約2時間素晴らしい時を過ごしました。特にお二人が醸し出す温かいアットホームな雰囲気と耳になじんだ選曲が大変良かったと皆様からご好評を頂きました。

尚、お二人には11月に開催されました「チャリティコンサート」にもご出演頂きました。  
(湯藤 哲)

## 四季の会

### ■第11回 「四季の会」イベント

歩いて笑って

歴史と文化の散歩ラリー

10月23日、快晴。女流講師室井琴柑さんの案内で、お江戸の歴史と文化の残る台東区界隈を歩きました。参加者は男性11名、女性20名。地下鉄銀座線田原町からスタートです。駅周辺から少しはずれると、そこにはお江戸と昭和の情緒がたっぷり残っていました。

まずは落語に縁の深い「本法寺」から。戦時中自粛の対象となった「禁演落語」が収められています。「はなし塚」で知られています。次いで啄木碑の等光寺↓彰義隊の拠点東本

願寺と歩いて、かつは橋道具街へ。ここで女子会の足は止まりましたが、ラリーは容赦なく通称カッパ寺の曹源寺へ。かつてこの界隈は地形的に水害に悩まされ、その解消に私財を投じた合羽屋喜八にちなんだ寺。カッパ賽銭箱にカッパの手のミイラ、カッパのオブジェもいろいろあって境内はカッパだらけ。お供えは勿論きゅうり。笑えるお寺でした。

ラリーは伊能忠敬・谷文兆の墓で知られる源空寺へ。さらに朝顔市で有名な入谷鬼子母神へ。境内の柘榴は子だくさんの象徴、ツノのない鬼は子育て安産の神として、今の若いカップルにも人気スポットです。ここまでメニューも盛りだくさん、かなり歩いて疲れました。

ここからは東京メトロ日比谷線が入谷↓小伝馬町へ移動。江戸時代最大の牢屋と言われた「小伝馬牢獄跡」へ。吉田松陰・橋本左内の終焉の場として知られています。いまは「十思公園」として園内に松蔭の辞世の歌碑があり、憩いの場として明るく変身していました。

最後のメは「寄席・お江戸日本橋亭」。風情のある会場で、お弁当の

昼食を済ませてから、前座と真打の落語・散歩ラリーの案内役宝井琴柑さんの講談で楽しく笑って無事終了しました。

それぞれ深い歴史に裏打ちされた由緒ある場所です。「じつくりもう一度来たい」が今回の感想でした。

(豊田和子)

## 詩吟同好会

発足以来2年が経過し、薄井是道先生の指導の下、毎週第4金曜日に談話室にて楽しく練習を重ねています。この半年間の主な活動状況は、

①8月、第2回目の温習会（おさらい会）を開催。各自の日頃の成果を発表し合い、秋の外部大会に備えた。

②10月4日、一門の大会が開催され号吟の部に初参加。「九月十三夜 陣中作」（上杉謙信作）を披露。

③11月3日、第28回吟剣詩舞道大会に当会より男女二名が独吟の部に初出演、緊張の中にも大いなる手ごたえを得ました。（写真）

70、80の手習いで始めた同好会で、すが練習会も熱心に参加した結果、



吟剣詩舞道大会にて

8名全員が初伝の免状を頂戴した快挙は何よりの成果でもありました。詩吟の奥深さを実感しつつ、新しい吟題に取り組む意欲と楽しみが湧いてきた感があります。新入会員のご参加を心から歓迎しております。

(芝山 茂)

## 自然を楽しむ会

### ■第52回 舞岡公園

(10月8日 参加者23名)

ここは面積28万㎡の横浜市立公園で、中央が水田などの低地、周囲が丘陵という典型的な谷戸の地形を保存しています。

起伏を避けつつ園路をゆっくり進み、ゲンノショウコ・ホトトギス・

オミナエシ・キンミズヒキ・ヒヨドリバナ・ミゾソバ・アキカラマツ・キツネノマゴ・オギ・シラヤマギク・ノコンギク等の花や、アケビ・クサギ・マユミ・カラスウリ・ガマズミ・ウメモドキ・イシミカワなどの実を、見つけては歓声を上げて、楽しく散策しました。

戸塚駅隣の懇親会は12人参加。

ミニ図鑑第16冊目（#16）を配布。キャップ・切手も多量に集まりました。

### ■第53回 昭和記念公園（立川市）

(11月12日 参加者16名)

昭和記念公園は米軍立川基地の跡地に昭和天皇在位50年を記念して作られた160haの国営公園です。

集合した西立川駅から既に沢山の人の波。はぐれぬように歩きます。真っ黄色な銀杏のトンネルが600mも続く先は、サザンカの街道、イギリやゴンズイの真っ赤な実、栃

の木の間木道。日本庭園では深紅や黄色やオレンジのカエデ・ニシキギ・ドウダンの鮮やかなモミジと、緑の松、静かな池水の対照。ツワブキの花。叢生する薄の株元に南蛮ギセルを発見。香り高い柊や銀木犀の

花、最後は立川口までの銀杏並木がダメ押しでした。

立川駅北のジョナサンでの懇親会は9名参加。

雑草ミニ図鑑第17冊目（#17）を配布。（店網俊夫）

## 水墨画教室

### ■公募第30回記念日本水墨院展開催

(於 国立新美術館 6月24日～7月5日)

記念展に相応しい内容の展覧会となった30回記念展、出品作品は286点に及び関係された先生方の遺作も展示され、某先生の遺作品は笠間稲荷神社に奉納される事になった。30年というのは、一つの節目であり、今後増々の発展を祈念致します。

我が教室からも日頃の研鑽の成果作品11点が出品展示され、2作品が受賞された。

審査員賞 須釜汀水  
梅花賞 山尾岳水

受賞された方々に心よりお祝いを申しあげると共に、益々のご活躍を祈念致します。

## ■第19回 日本水墨院研修会開催

(於 ハピネスケア四谷 10月2日)

日本水墨院

主催の会員始め一般の方も参加出来る

「水墨画の描法」と題して

今回は、講師

伊藤昌先生

による実技指

導と講演が行なわれた。参加費は会場費として500円。場所も四谷駅

(四谷口徒歩2分)大変便利な為好評であった。来年も実施の予定。乞うご来場。  
(須釜栄作)

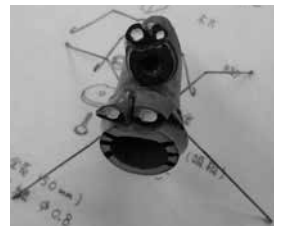


水墨画研修会  
講師 伊藤昌先生を囲んで

## 竹とんぼ同好会

猛暑の疲れも飛び跳ねて吹き飛ばそうと夏休み明けの9月は「跳ねカエル」の組立に挑戦です。竹を節のところまで輪切りにすると、なんとも可愛らしいカエルの出現です。

枝が出ているところが目玉。太さが違う竹を組合せると親子蛙が誕生します。画像のカエルは筆者が変な色を塗り張子の虎になりました。



跳ねカエル

カエルをギュッと机などに押し付けると腹の吸盤の力で暫く吸着した後、弾力があるピアノ線で出来た足の力でピョンと飛び跳ねます。各人の作品は飛び跳ねるまでのタイミングがまちまちのため、完成後のひとは「ワーツ」「キヤーツ」とか場合によっては「・・・」(机に吸い付いたまま飛び跳ねない)、しかし忘れたところにピョンでやれやれと大笑いの合唱です。好い歳をしてと言いたいところですが、毎回事務局にはご迷惑をかけながらも大声で無邪気に叫んだり笑ったりすることは最高の老化予防となり、日退協らしい同好会活動だと自負しています。

(富川 正)

## 築地海鮮井川柳会

築地海鮮井川柳会が発足して11年余になりました。会場は築地から日

本橋、神田川べり佐久間河岸へと移り、日本川柳協会理事津田暹先生のご指導で十数名の会員が毎月第二土曜日の午後を天衣無縫意気軒昂の川柳ライブでエンジョイしています。

時流を映す世相川柳、暮らしの万感こもる生活川柳と傾向は様々ですが毎回の課題吟三句は津田先生の選句、自由吟二句は会員の互選投票となります。近詠の一部をご紹介します。

### 「課題」チャンス

点滴もチャンスメタボの腹を撫で下請けのチャンス世界へ手が足りず神様の呉れるヒントのないチャンス

### 「課題」糸

釣り糸が老いの魚を軽くする  
萱・翁長終んだ糸が解れない  
助けてに糸一本が何故来ない

### 「課題」平和

古い二人平和は小さきもので良い  
エアコンの利いた八月十五日  
ジリジリと平和が焼ける音がする

### 「課題」果物

家計簿の近くに何時もいるバナナ  
夫老いて生家の柿を懐かしむ  
独り者カット西瓜で夏を食べ

### 「自由吟」

工事費で打ち立てました新記録  
シニア席占領されてスマホ席  
騒音に分別される子供達  
国益になれば歴史を曲げもする  
寝ぐせ髪苦勞するほど髪は無し  
大相撲いつもの席の艶な人  
あの国もやはり船長先に逃げ  
昼課長夜は社長の繁華街  
新会員大歓迎 (家根一星)

## デジカメクラブ

機種はコンデジから一眼レフまで、対象は花、祭、風景、文芸探訪、夜景など、デジカメクラブは全体としては広い範囲を、それぞれが得意な分野を、自由に追求する集団です。

例会ではパソコンモニターで各自が自分の作品を紹介します。続いて、全員で意見交換します。関連して、作品造りや、写真技術に関わる疑問の討論、新技術、展示会情報など話題はその時々あらゆる方向に拡散発展します。

実践の場として、年数回の撮影会を行います。折々の花、紅葉など季節の移ろいや、街角の風景などを



追いかけてます。これら活動を通じて、近年各人の技量は着実に進歩していると思います。

さて、最近スマホの写真機能強化がコンパクトデジタルカメラの売行きを直撃し、デジタルカメラの衰退期到来などと報道されています。カメラ製造業界としては、なるほどこれは由々しき事態かも知れません。しかしユーザーの立場からはスマホを含めた撮影総数は増え、全体として選択肢が広がり、デジタルカメラ自体のコストパフォーマンスも着実に上がっているのが実態だと思います。今はデジタルカメラを極めるチャンスなのかも知れません。

いっぽう性能の向上は機能の複雑化をもたらし、カメラを自在に使いこなせている人は少ないのも実態です。この場合、多くの機器機能の中から自分にとって最適なものを見つけ出すことが大切になります。

このような進歩のヒントは自分で気付くより、何気ない仲間の言葉から得られることが多いように思います。一緒に学び、楽しみませんか？

毎月第一水曜日1時半、日退協会議室でお待ちしております。

(菅 克之)

## PCクラブ

### Windows 10について

7月号ではWindows 10の概略を記述しましたが、今回は実際にアップデートをした顛末記です。

マイクロソフトから準備が出来たとの通知があり、まず8・1を乗り換え、問題なくスムーズに完了したので、続いて7のメイン機についてもアップデートに踏み切りました。

所要時間は1時間足らず。画面の指示通り進捗し、やがて窓から光が差し込むWindows 10の画面に変わったときはやはり安心感と若干の感動が味わえました。

使い勝手ですが、全般的には軽快で気持ちが良いのですが、若干違和感があるのは新しい「メール」についてです。従来使っていたLive

メールは別途インストールして使えるのですが、この場合アドレス帳も一体化しているのに、新しい「メール」にはアドレス帳がありません。「People」という別のソフトでアドレスは管理するようになりま

した。

WIN10の無料化を図ったのは、スマホのOSは無料ですから一層スマホのソフトに近付けてスマホ利用者に支持されるのが生き残る道と考えたのがマイクロソフトの本音のようないな気がします。従ってメールソフトと住所録を分けても、ドコモメールなら電話帳で別管理しているのを利用者にもストレスはないと判断しているのでしょうか。

なお、パソコン雑誌の記事によるとLiveメールはWIN10との相性が良くないそうです。Gメールなどを利用したほうがよさそうです。その他の周辺機器とか、7で使っていたソフトは今のところ問題なく動いています。WIN10の利用を思案中の方は参考にしてください。但し、今使用中のパソコンの丸ごとバックアップは必須ですからご注意ください。

さて、ネットでの情報収集力アップも勉強しました。ナデシコジャパンの戦いぶりはユーチューブで沢山取り扱われましたが、フィールドを360度視野に入れた画像があったのをご存知ですか。オウンゴールも視野を変えると一層面白いですよ。

もっともっとパソコンを活用して楽しみましょう。(富川 正)

## 木版画教室

当教室では活動の一環として毎年卓上カレンダーを作成していますが、本年度も小泉和男先生の指導のもと各人の趣向をこらした2016年の作品を作りあげました。

年間計画ではスケッチ・ハイク等幅広い野外活動の予定を組んでいますが教室員の人数や体調等の問題もあってなかなか思うにまかせないのが実情です。

その中でカレンダーの作成も摺りの枚数が多く結構体力を使うため、従来各月に一枚の絵を今年度より2か月に一枚とせざるを得ませんでした。しかしながら出来栄えは日頃の研鑽のおかげでまあよかったです。研鑽のおかげでまあよかったです。ないかと自讃しています。思ったように摺りあがった時の気分は何とも言えないものがあります。



2016年カレンダー

す。

会員の皆さんも多少なりとも興味がありまして是非教室を気軽に覗いてみて下さい。

お待ちしております。(林 俊機)

## 歴史を考える会

### ■第143回

「歴史戦争への対処についての一  
試案」

講師 梶谷浩会員 (5月25日)

第二次世界大戦は日独伊のファッショに対して、英米ソ中の「民主勢力が勝利したとする「戦勝国史観」が連合国側から唱えられてきました。そしてそれに反対する向きに対しては、「歴史修正主義」というレッテルを貼って葬り去ろうとする傾向があります。さらに、中国や韓国から日本の過去の行為に対して補償を求める動きがあります。これらの動きに対して、我国は長期戦を覚悟して、挙国体制で立ち向わねばなりません。日本歴史の教科書問題などに造詣の深い梶谷浩会員から、歴史戦争にどのように対処していくべきか、私案の発表がありました。

(1) 我国が国際政治上とるべき立脚

点を明確にすること。

①「戦勝国史観」や「70年史観」から脱却すること

②自由世界諸国に対して、日本は警戒する対象ではなく、自由世界においても頼もしい味方であることを理解させる

③戦後の占領政策であった「日本弱体化」は誤りであり、「強い日本」が自由世界のためになることをわからせること

(2) 真実の歴史の普及に努めること

①公文書を英文化し、世界へ発信する。世界に過去の日本の行動への誤解を払底させ、真実への理解を深めるように努める

②慰安婦問題や南京事件などについて事実をしっかりと伝え、アジア諸国に正しい歴史認識を深めてもらう

③民間のブレインの力を利用する以上の点を強調されました。

### ■第144回、145回、146回、147回

「新版・中学社会・新しい教科書から」

講師 梶谷浩会員

(6月22日、7月27日、9月20日、

10月26日)

平成27年検定の新しい歴史教科書について、色々興味ある内容の紹介がありました。

①和の世界だった日本 縄文時代の遺跡からは武器の出土はなく、魏志倭人伝には当時は盗みもなく、争いのない社会であったと記されている。又日本の国造りの物語を述べている神話では、

当時大事なことは皆で相談して決めていた。争い事は話合いで決める。敗者を労わり、大切に遇する事が日本人の考え方であったことが実感できるように記されている。

②外来文化への態度 自国の伝統を大切にしつつ、外国文化の良いところを積極的に取り入れ、国情に合わないことは切り捨ててきた。

③勤労の美德 日本人は元々勤勉で、ものづくりが得意。近代日本の産業革命が成功した要因は江戸時代からの民衆の高い教育水準や勤勉の精神があったと教えている。

④江戸の人口は100万人で欧州最大のパリの54万人を超える世界最大の都市であったが、上水道や大小便に分けた便所の普及など、リサイクルを含み、エコロジー都市であった。

⑤列強の植民地拡張の真最中に起こった明治維新だったが、日本は中央集権化と近代化の推進により乗り切ることが出来た。維新を可能にしたのは、権威と権力を分離していたため、武家が支配権を自発的に権威側に差し出して、中央集権化が出来たことを成功要因に挙げている。

⑥第二次世界大戦は独ソがポーランドを分割、領有する密約を実行したことから始まったと記している。真珠湾攻撃は軍事的には成功したが、米国を参戦させたことは戦略的には失敗だったと書かれている。

⑦21世紀の日本の進路については、日本人は自らの歴史に自信と誇りをもって、優れた日本文化を世界に発信して、人類の平和と発展に貢献していくことだと結ばれた。

(伊豆山寛)

## 神奈川会

### ■第46回イベント「みさきマグロのランチ」と「城ヶ島」散策

(6月26日 参加者41名)

梅雨のときながら、辛うじて曇天を保った金曜日、総勢41名が京浜急行終着駅の三崎口駅に集いました。そこからは、参加者が多数のため2台の路線バスに分乗して城ヶ島に向きました。城ヶ島白秋碑前バス停で下車、紫陽花が紫や赤に咲き競う道を城ヶ島公園入口まで10分ほど歩き、そこで初めて全員が顔を合わせて当日の計画の話ができました。時々雨



城ヶ島公園にて

のそば降る公園を散策し、まさに「城ヶ島の雨」の風情を十分堪能することができました。

外洋側の波は荒く、岩が鋭く削られており、小さな漁船が沖に向かい、一方東京湾側では間近に見える房総半島との海峡を多くの超大型貨物船が航行しているのが見えました。また島の松は一方方向に地を這うように傾き、風の強さを実感しました。

公園を後にバスで三崎港に戻り、待望の昼食。各自お好みの店に入りました。食後は三班に分かれて、水中観光船での魚群見学、ガラス工芸館でのトンボ玉作り、チャッキラコ見学と海南神社参拝とそれぞれ興味のあるグループに参加して、ひと時の童心に帰りました。

産直センターに再集合し、記念撮影をしてから現地解散をしました。一部の人々は新鮮なお魚のお土産を買っていました。また有志15名は横須賀中央駅に繰り出して反省会を盛大に開催しました。今回は女性が

17名も参加していただき、幹事として大変うれしいことでした。

### ■第47回イベント「Jパワー・磯子火力発電所」見学

(9月24日 参加者30名)

曇り空の昼過ぎ、総勢30名が磯子駅に集合。午後集合で発電所見学という地味な企画でしたが、嬉しいことに女性が7名も参加されました。

バスで14時前にJパワーが誇る「磯子石炭火力発電所」を訪問。

早速プレゼン室で施設の概要・特色、国内外のエネルギー事情等の詳細な説明を受けました。続いて二班に分かれて、別室の百分の一スケールの巨大ジオラマで発電システムの全貌と大気汚染防止対策に関する知識を仕入れました(コストパフォーマンス、騒音や公害物質の除去力等、は世界最高水準とのこと)。

いよいよ実際の施設の見学開始。東京ドーム二個半分の敷地(他の発電所に比べて極めて狭い)に林立する棟屋を巡りながら、メインのボー

ラータワー(高さ100M)に入り、巨大なタービンの稼働状況、施設全体を制御・管理する運転センター、その他の関連設備群を見学。さらに、屋上の上って360度の絶景を堪能できるサービスもありました。

技術力、製造力、さらに高度な機能をより美しく具現化する肌理の細かさなど、まさに「日本の力(Jパワー)」に直接触れた感動と満足の間、2時間でした。磯子駅前での解散時には、皆さん様に笑顔であったのが印象的でした。

解散後、10名の有志で恒例の反省会を居酒屋「安兵衛」で開催しおいに盛り上がりました。(飯田吉辰)



磯子火力発電所見学

## 京葉会

### ■第14回 ブドウ狩りと鑑賞植物園

(10月1日 参加者17名)

うす曇りの空が必死に雨を食い止めてくれていたなか、早速北総鉄道「大町駅」を出発して徒歩10分の梨園に向かいます。和梨の収穫量は千葉県が全国第一位とかで、このあたり一帯も梨園が沢山あります。ただ残念なことに、今は時期的に梨には少し遅く、今日はブドウ狩りを楽しむことになりました。

入口で「被せてある袋を開き、黒く熟したものを選んで食べてください」と教えられ、籠と鉢を受け取りブドウの房の下に急行します。



ブドウ狩り

これはと思う紙袋を破って摘み取ったブドウはさすがに甘くて美味しいのですが二房も食べるとお腹も結構ふくれてしまいます。

幹事さんの気配りによるお茶や缶ビールで大満足のお弁当タイム。

後半は「市川市鑑賞植物園」。何かお世話になっている「自然を楽しむ会」でおなじみの店網さんに協力いただき、山野草木の説明を聞きながらの散策となります。ツリフネ草が綺麗に咲いていました。

予報では夕方となっていたのに早くもポツリと雨の気配。それではと少し歩調を早めて本降りになる前に園内の建物に到着。入口を入るとすぐ温室につながっていて、ランなど綺麗な花を三々五々見て回りました。休憩も交えて1時間ほど過ごして出発地「大町駅」に戻り、次回の再会を約し全員元気に解散。

希望者はひと駅先の新鎌ヶ谷駅前へ移動し、インド料理店で懇親会を楽しみました。いっしょか外はすっかり本降りです。

(富川 正)

### ■第15回 花王化粧品工場の見学と

昼食会 (11月26日 参加者24名)

今回は、花王の化粧品工場見学と

昼食会の取り合わせです。はつきりとしなない曇り空の下、24名の参加を得て始まりました。この日は京葉会では珍しく女性の方の参加が半数を数えましたことは、誠にありがたいことです。

先ず亀戸駅から徒歩15分ほどの花王工場へと向かいました。この工場見学は非常に人気が高く、受付と同時に予約が埋まってしまい、今回も予約を取るのに苦労しました。

化粧品工場と併設のミュージアムの見学では、化粧品の出来るまでの工程や、花王のこれまでの歴史と数々の資料が展示されていました。歴史コーナーには創業の原点となる

花王石鹸や懐かしいポスターなども並んでいました。中でも、肌の状態を測定するセンサーを頬に押し当

に押し当



花王工場見学

てたり、髪の毛の太さを測る装置を試したり、また食べ方タイプの測定をしたりして、皆さんそれぞれ一喜一憂されていたのが印象的でした。やはり美容と健康は何歳になっても気になるものですね。最後に全員で記念写真を撮影して前半の見学会が終了しました。はいチーズ。

後半はもう一つのお楽しみのお昼食会です。場所は亀戸大根でも有名な地元のお店の料理屋さんです。ちなみに亀戸大根は日本一小さな大根で、江戸伝統野菜の一つです。その名の通り当地亀戸で栽培されていました。今では幻の大根として、非常に貴重なものになっているようです。ランチは亀戸大根をあしらった浅利せいろめしを味わいながらアルコールも入って、皆さん和やかに談笑して至福の時間を過ごしていました。

最後に希望者により、近くの亀戸天神を参拝しました。ここは学問の神様として親しまれ、東京一の藤の名所としても知られています。今回は季節が違い藤は観られませんでしたが、有名な太鼓橋からのスカイツリーの勇姿を眺めることができました。

(佐久間征二)

## 埼玉会

### ■納涼会に参加して (8月16日)

2月に本田技研工場見学に初参加して「えっ、男性ばかりじゃない？」が最初の印象でした。又、4月には岩槻城址公園でのお花見、6月にキッコーマン野田工場見学、今回は8月6日納涼の会です。高温注意報が続くまさに納涼会にふさわしい日でした。午後4時集合。少し早かったので大宮改札を出て女3人でウインドウショッピングした後、目的の地下の店「はなの舞」に着きました。何人かもう既にお見えになっていました。エアコンが強くさっと涼しくなりました。アルコールが飲めない私は、美味しいお料理を沢山頂きました。初めての方達と出会って色々なお話が出来た、あつという間の2時間でした。楽しい一時をありがとうございました。(新井美枝子)

■「三峯神社・拝殿回廊」拝観記

「三峯神社・拝殿回廊」拝観が秋晴れの好天に恵まれた10月27日催されました。今回初めてバスツアーが催行され、23名が参加しました。三

峯神社は埼玉県在住者にとって一度は訪れてみたい秩父の霊場です。10時半川越を出発、途中休憩を挟んで午後1時前に到着。昼食後、三々五々拝観に移り、先ずは極彩色の拝殿で参拝、隨身門、日本武尊の銅像、色づき始めた秋の山々を一望できる遥拝殿など数多く残された歴史的建造物を観て回ることができました。拝観後、3時前に帰路につき、バスの中では酒とスナックで懇親を深め、6時前に川越到着、解散となりました。この僅かなバスの旅の行き帰りには秋の景色を楽しむことができました。

(地畑健吉)



三峯神社 参拝



埼玉会女子会

### ■埼玉会女子会第1回イベント

女性の皆様との懇親会を深めたく女子会を始めました。美味しいランチと体験や鑑賞を合わせた楽しいイベントにしたいと考えています。第1回目は11月2日(月)に開催致しました。

大宮駅で集合し、氷川神社参道入口のイタリアンレストランシヤトレー(ラフォーレ清水園内)でランチをしながら、初めてお会いする方も和気あいあいと話が弾みランチタイムを楽しく過ごしました。

その後、氷川の杜文化館で開催されている採光会写真展に行き素晴らしい作品

鑑賞しました。係員の丁寧な説明もあって久し振りに感嘆しました。今後、美味しいものを食べ、楽し

い事を経験する会としていろいろな場所を計画していきますので、今回参加されなかった皆さんも次回は是非お待ちしております。

また、お店の情報とか、行ってみたい場所などのご希望をお聞かせください。

(伊藤春江)

## 西東京会

### ■第18回イベント

#### 「第14回寄席・落語鑑賞会」

(9月29日 参加者25名)

西東京会恒例の第4回目の「寄席・落語鑑賞会」が25名の参加者を得て、まだまだ残暑厳しい9月29日「池袋演芸場」で開催しました。第1回目は「新宿・末広」、第2回目は「上野・鈴木」、第3回目は「浅草演芸ホール」、そして第4回目の「池袋演芸場」と昔からファンに親しまれている都内にある老舗の各寄席を楽しんできました。まさに西東京会にとって恒例の会になったと思われま

す。

この「池袋演芸場」は他の寄席と違い100席余りしかない小じんまりとした小屋で、団体席としてまとま



「池袋演芸場」前にて

り上がり、日頃のストレスが解消された1日になりました。(橋本隆夫)

■第19回イベント

「鉄道総研 見学会」

(10月10日 参加者14名)

天候に恵まれた穏やかな秋の土曜日の半日、「鉄道総研」の一般公開日に合わせ見学会を行いました。「鉄道総研」は通称であり正式には「公益財団法人鉄道総合技術研究所」です。

1986年(昭和61年)に運輸大臣の許可を取得し1987年(昭和62年)4月にJR会社の発足と同時に本格的な活動を開始しました。旧国鉄時代には同研究所の前身は浜松町にあったそうです。戦後は一時期米軍に接収されていた事もありました。その後、当時の十河総裁の並々ならぬご尽力もあつたようですが、現在の国立市(JR国立駅から徒歩約10分)の広い敷地にてスタートしました。旧国鉄時代から引き継いだ鉄道に関する技術・研究・開発力を基に新幹線からリニア中央新幹線まで総合的な技術開発の先端をリードしております。

「鉄道総研」は春の桜の季節(所

内はしだれ桜を含め桜の大き木が多く植林されてます)と秋の「鉄道記念日」に合わせた土曜日に一般公開しております。

特に秋は「平兵衛祭り」(今年第28回目)と名称がつけられ家族連れを中心に大勢な人々で賑わっていました。広大な敷地内には作業実務モデル(溶接技術等)や実験(風洞力体験等)への実体験等があり興味をそそられるイベントが数多くあります。

又、多くの屋台が出店され野外コンサートもあり楽しい時間が過ごせます。特に鉄道に関心を持つ子供達にむけた数々の催し事が企画されて



「鉄道総研 平兵衛祭り」会場にて

おり家族連れの歓声があちこちで挙がっております。

研究所の役員の方々総出のアテンドは大変な準備と労力を窺わせました。この研究所の一般公開を絡めてのお祭りは「西東京会」でも以前から話題にしておりましたが企画しましたのは今回が初めてです。確かに人出は多いですが会場は広く、特にご家族連れでの参加をお勧めしたいです。今回は21名の申し込みで14名の参加でしたが小学生3人のお孫さんを連れての参加者もおられました。帰途、有志による懇親会を持ちましたが来年も春及び秋に是非企画しご案内したいとの意見も多数でした。是非皆様のご参加をお待ちしております。

(湯藤 哲)

■第20回イベント「懇親ゴルフ会」

(10月27日 参加者15名)

「西東京会」が2年前より主催事務局として継続して参りました日退協ゴルフコンペ(通算54回)の秋のゴルフ会を「GMG八王子ゴルフ場」で開催致しました。ゴルフ場は昭和42年開場で都心からも近く、多摩丘陵の森林に囲まれ変化に富んだ丘陵コースです。距離が短い分フェ

る事ができず、皆さんにご不便をおかけしたと思いますが、すぐ間近で落語が聞けて逆に良かったと思っております。更に今回は「池袋II文化都市」プロジェクトとの連携企画で、笑いの戦後〜乱歩と禁演落語〜と銘打った企画で開催されたもので、かつて池袋周辺に居を構えていた推理作家の江戸川乱歩の小説を題材にした話や戦後日本の復興を庶民生活の中で面白おかしく揶揄した話等、伝統芸能である古典落語とはひと味違った話も聞けて、笑いが絶えず、大いに楽しめたひと時でした。引き続き15名が参加された懇親会が行われ、アルコールとトークで大いに盛



スタート前 GMG八王子ゴルフ場にて

アウェイはアンジュレーションがあり、グリーンは砲台でコースとしては難しく造られています。当日は素晴らしい秋晴れとなり、午後は多少風の影響はありましたが、気温は24度まで上がり汗ばむほどのゴルフ日和となりました。週間予報では雨が、幸いにも予報がはずれ好天にめぐまれ何よりでした。参加者は会員の方々には女性3名の参加も頂き4組15名のコンペとなりました。皆様のプレー後の印象として、当日のグリーンは非常に早く、ピンの位置も難しく切られていて苦戦された声が多く聞かれました。競技はいつも通

り新ペリア方式で競い、優勝は塩山、準優勝は初参加の松波けい子さん、3位は福島龍郎さん、そしてベストクロスは西村修さんでした。

西村さんとご一緒にラウンドしましたが、ダイヤモンドバーディーは圧巻で、唯一人80台で廻られてお見事でした。ラウンド終了後に表彰式を兼ねた懇親会が行われ、短時間ではありますが、和気あいあい会員の交流を深め散会となりました。

(塩山哲郎)

■第20回イベント「紅葉を愛でる会」

(11月20日 参加者23名)

天狗伝説と山岳信仰の霊山「高尾山」散策。期待していた天候は今にも泣きだしそうな生憎の空模様、しかも肌寒い一日でしたが、午後1時

京王線「高尾山口駅」から歩いて5分程のケーブルカー乗り場「清滝駅」に参集。ミシラン三ツ星観光地でお馴染みになった高尾山散策は比較的軽装で参加出来る為か外国からの観光客も多数集まっておりました。我々のメンバーは女性8名を含め総勢23名、高尾山頂を目指して、ぎゅうぎゅう詰めのケーブルカーに乗り込みました。日本一急勾配と言われ



ケーブルカー乗り場「清滝駅」にて

るケーブルをおよそ6分間で終点の高尾山駅に駆け上ります。そこから今度は徒歩で天狗伝説の薬王院まで約1キロメートル、途中紅葉を愛でながらタコの形をしたタコ杉や仏舎利塔を見物、山門をくぐると目指す薬王院に到達です。標高600メートルの山岳信仰の霊山のこは天狗様で有名です。山伏修行が随時行われ、その時の山伏の姿が天狗と同一視され天狗伝説になった。生憎の天気で残念ながら真っ赤な紅葉を充分見ることは出来ませんでした。全般的には紅葉の進捗度合いは60パーセント位、一週間程来るのが早かったかなと思えました。

薬王院から高尾山頂上までは約800メートル位ですが最後の力を振り絞って山頂を目指す。いいただき、まだにもう少しと言う処に、驚いたことに素晴らしい「手洗い」が有り、さすがにミシラン三ツ星観光地に取り上げられた霊山だなあと感心。30分程歩いて到着。頂上からの眺望に目を凝らしましたが、天気が良ければ遠く富士の霊峰が拝めるはずでしたが、かなわず眼下に八王子市の町並と遠く新宿の高層ビル街と思われる街の姿が見ることが出来ました。

帰りは比較的楽な裏道を歩きケーブルカー駅に戻って来ました。この駅も下山する方々で混雑していましたが、無事計画した終点の清滝駅に4時頃帰着。恒例の参加者懇親会は京王線で一駅新宿方面の高尾駅に向かい、駅前の予約した居酒屋にて和気あいあいと美味しい酒を酌み交しながら、今日一日を総括。次のイベントを期待し、帰途につきました。

(西納政光)

# 詩吟を楽しむ会

広島支部 橋本 保

広島支部の「詩吟を楽しむ会」は平成18年

4月の発足で発足以来9年余りになります。

学習方法は、月一回・二時間で、一時間目は原則として毎回新しい詩に取り組み、各自が今日習ったものを独吟しています。二時間目は自分の得意な詩を吟じ、楽しくかつ真剣にやっております。

月一回の学習では遅々として進みませんが、近年は絶句（四行詩）の他に律詩（八行詩）・短歌にも取り組んでいます。吟題は季節に合った詩、話題性のある詩に取り組みよう心がけています。

会員数は当初10人でしたが、現在は20人となり、会場が狭くて困っているほどです。最近女性の方も加入され、将来は男性の部・女性の部と二部に分けてはどうかと考えています。

主目的は、会員の親睦と技術の向上ですが、副産物として、「健康に良い」「漢詩を通して名句・名言に出会える」「当時の歴史的背景を学べる」「作者の心情や信条が伺える」等

良いことが沢山あります。

医師の話によると深呼吸することは健康に非常によく、それには詩吟が一番適しているそうです。

漢詩を通して得られる知識は沢山あります。一般的なものを列挙すると次のようなものがあります。

● 誰でも知っている名文句としては

因破れて山河あり 春望 杜 甫作

春宵一刻值千金 春夜 蘇東坡作

● 語源となった句としては

人生七十古来稀なり (古稀の語源)

曲江 杜 甫作

僧は敲く月下の門 (推敲の語源)

題李凝幽居 賈島作

これは作者賈島がこの詩を作る時「僧は敲く月下の門」と「僧は推す月下の門」のどちらが良いか迷った末、韓愈の助言により「敲く」にしたという故事から生まれた言葉と言われています。

最後に腕試しの場として、広島支部総会後



の懇親会や留学生との交流会の席上で発表しています。総会では今年「長壽之詩」「祝賀詞」とおめでたいものをそろえましたが、例年は有名な詩かNHK大河ドラマに関係あるものを選んでいきます。留学生との交流会では、中国人の留学生が多数おられるので中国人の作品を吟じるように心がけています。今年には李白作の「清平調詞」等を吟じました。又今年からは剣舞との共演も行っています。



特別講演 『日本人は国を守るか』

損保マチュリティ懇話会 会長 松多 昭三



講師 小川和久氏

損保OBの集いは、今回で28回目となりますが、特別講演の講師には、日本を代表する軍事アナリストであり、静岡県立大学グローバル地域センター特任教授の小川和久先生をお迎えし、『日本人は国を守るか』と題して、日本の安全保障を多角的な視野から論じていただきました。

丁度、国会では安全保障関連法案の審議が行われている最中であり、日本の安全保障が国民の最大の関心事になっている今、小川先生の講演はまさに時宜を得たものとなり、ご参加いただきました151名の皆様にもご満足いただけたのではないかと思います。

〈講演内容の概要〉

■結論から言うと、「日本人は国を守れない」

日本人は海に守られてきた結果、危機に遭遇したことがなく、外交・安全保障・危機管理に関してはDNA的にセンスがない。政治家、官僚、学者ともに日本にしか通用しない論議に終始している。

■集団的自衛権をめぐる議論

○「権利はあるけれど、集団的自衛権については行使しない」という1972年の政府の政策判断を変更したものであり、今回問題になっている集団的自衛権は憲法解釈の変更ではなく、政策判断の変更である。

○世界に通用する議論をするためには「日米安保条約」「国連憲章」そして「日本国憲法」を併せ整理する必要がある。日米安保条約、国連憲章のどの条文も集団的自衛権を否定していない。国連憲章第51条では「どの国にも個別的、集団的自衛権がある」と明記されている。集団的自衛権は憲法違反ではない。

○日本国憲法の理念を規定している前文が極めて重要であり、そこには、「国民主権」、「基本的人権」、「平和主義」の3つの理念が謳われており、その平和主義については「世界の平和を実現するために、行動することを誓います」と誇り高く宣言している。前文の主旨と憲法9条とは全く合わない。「憲法9条こそが憲法違反」といふべきである。

■日本の平和と安全を守るための選択肢は二つしかない

その選択肢の一方を採れば、集団的自衛権は前提となり、もう一方を採れば独力で自衛することとなる。今現在、アメリカとの同盟関係のなか、年間約5兆円の防衛費で世界最高レベルの安全、平和が実現できているが、これを独力で実現するとすれば年間23兆円の負担に耐える必要がある。それも10年、20年ぐらい続けて、やっと防衛費が圧縮できるかどうかの段階に入る。どちらのほうが費用対効果が優れているかは自明の理である。

■日米同盟の抑止力

相手に手出しをためらわせることが抑止力であり、反対に、ためらわせることができないれば抑止力とはならない。また、同時に、外交的な関わりとか文化的な交流とか色々なものが重層的に含まれて、他国との関係が健全かつ安定した状態になることが極めて重要である。

（抄録／石井 憲）

公益社団法人 **日本産業退職者協会 役員名簿** (50音順)

(平成28年1月20日現在)

監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	専務理事	専務理事	副会長	副会長	役員					
江口俊治	横堀尚昭	山田雅彦	満田将太	水上幸雄	松多昭三	藤崎大郎	橋本隆夫	佐久間征二	黒木重昭	倉片厚子	大里璋子	糸数富美江	渡部俊一	湯藤忠哲	嶋山政昭	西納政光	高島進一	上神圭二	井上国隆	安藤隆夫	細江謨夫	田林巖樹	関根貞夫	有馬弘純	榎本郁夫	山鹿素雄	森鹿素保	山本惠朗

**参 顧  
与 問**

鷺山俊男	三砂善之介	日高三誠	長澤哲夫	富川正	田中昭二	店網俊夫	高橋淳	鈴木裕史	鈴木俊二	芝山幸茂	越中幸夫	岸藤孝明	加藤孝子	梶谷芳浩	岩淵良信	岩澤辰雄	猪股良雄	市川千尋	久野木行美	梶田省三
------	-------	------	------	-----	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------

**編集後記**

▼新しい年を迎えると「今年は新たなことに挑戦をしたい」と考える人は多いのではないだろうか。

▼本誌新年号の巻頭特集では「地方創生」を取り上げました。寄稿していただいた見城美枝子さんは私たちが青春真っ只中のころ、ラジオから流れてくるその声に胸をときめかせた人でした。そして今、就いておられる公職の多さにも驚かされますが、いまや「認定NPO法人ふるさと回帰支援センター理事長」として、都市に集中しすぎた人口の偏在を元に戻して、わが国本来の活力を取り戻すという活動に力を注いでおられます。

▼「田舎暮らしが日本を作り変える」と言われると、宮崎をふるさとに持つ私などは改めて勇気づけられます。会員のみなさまも、この特集をきっかけに新しいお気持ちで日本の各地に足を運ばれ、ふるさとと日本を考えていただければと願っています。

▼今回、「ひとこと」では会員みなさまの心に残る一冊の本を紹介していただくことにいたしました。ここ経験豊富なみなさまだけに、ここに掲載された数々の本は「自分も読んでみたい」と思われるものばかりです。そして、その本を紹介した方の心の中を見せていただくような気さえいいたしました。

▼併せて本を紹介するプロ「週刊読書人」という書評専門紙の編集長からも、会員のみなさまにお奨めする本も案内していただきました。

日常を豊かにし心を養う「読書」を今年も続けて行きたいと願っています。  
(黒木重昭)

**MATURITY・第一〇二号** ※無断転載を禁ず  
二〇一六年一月二〇日発行

発行人 榎本郁夫  
編集人 黒木重昭

発行所 公益社団法人 日本産業退職者協会 ©  
〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸51  
第一スレートビル7階

電話 〇三(六二四〇)九三八一  
ファックス 〇三(六二四〇)九三八二  
ホームページ <http://jaijpo.jp/>

# 法人・団体 会員名簿

(平成 28 年 1 月 20 日現在)

株式会社イトーヨーカ堂	株式会社千代田セレモニー	丸紅株式会社
共栄火災海上保険株式会社	トリア再保険株式会社	みずほ信託銀行株式会社
株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント	西松建設株式会社	株式会社みずほフィナンシャルグループ
五洋建設株式会社	日本カーボン株式会社	株式会社ミツウロコグループホールディングス
JFEスチール株式会社	一般社団法人日本損害保険協会	安田不動産株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	ヒューリック株式会社	ユニバース開発株式会社
大和証券株式会社	富士火災海上保険株式会社	株式会社リサ・パートナーズ
宝酒造株式会社	文唱堂印刷株式会社	(五〇音順)
東京海上日動火災保険株式会社	株式会社ベネフィット・ワン	
東京建物株式会社	丸大食品株式会社	



### ◀ヨコハマ 夕景

菅 克之

毎年年末になるとここは運河パークからみなどみらいを撮るカメラマンであふれる。群集を避けて撮った一枚です。

### 出初め式▶

竜田 正彦 (広島支部)

毎年、恒例の「出初め式」が行われます。メインのイベントがこの「梯子乗り」です。息の合った演技は大変見事なもので、ポーズが決まれば拍手喝采です。



### ◀スズメと戯れる

須賀 紀哉 (広島支部)

冬の暖かい日、世界遺産「原爆ドーム」の前で、少女がスズメに餌をやっていました。いつものことで小鳥も馴れており、愛らしくシャッターを切りました。

### 夕陽をあびる勝鬨橋▶

鈴木 新太郎

勝鬨橋は隅田川に架かる橋。橋のたもとには築地の魚河岸がある。

